



門 79
 號 4109
 5

古今茶道全書卷

- 一 後別義元公洛地庭并書院庭の事
- 二 聚茶法中洛地敷茶屋并書院庭の事
- 三 飛茶法三入道洛地敷茶屋并書院庭の事
- 四 敷茶屋上庭庭并書院庭の事
- 五 同佛成院庭の事
- 六 南都寺熱洛地并書院庭の事
- 七 銀臨洛地敷茶屋并書院庭の事
- 八 京極安智洛地敷茶屋并書院庭の事
- 九 加茂肥後寺敷茶屋并書院庭の事
- 九 古岡藏洛地敷茶屋并書院庭の事

茶五

昭和42年12月12日
 和田大作氏贈

- ⑩ 小堀寺川路地蔵書院殿の事
- ⑪ 利休路地蔵并書院殿の事
- ⑫ 酒井日向寺路地蔵并書院殿の事
- ⑬ 越前太寺路地蔵并書院殿の事
- ⑭ 一柳氏路地蔵并書院殿の事
- ⑮ 堺町市役所路地蔵并書院殿の事
- ⑯ 北門氏路地蔵并書院殿の事
- ⑰ 麻菴作教家并書院殿の事
- ⑱ 山水作り振茶屋の直振の事
- ⑲ 續石く仕振の事
- ⑳ 路地扣土の仕振の事

- ㉑ 橋柱の墨并ぬき穴の仕振の事
- ㉒ 玉洞換山一級漆秘密の事
- ㉓ 玉洞換山水二級漆秘密の事
- ㉔ 玉洞換山三級漆秘密の事
- ㉕ 建仁寺名石並の事
- ㉖ 聖酒太子法隆寺の圖式の事

其 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺
 寺 廟 大 小 均 有 其 中 國 人 の 寺

宗匠名人之路地庭之事 并書院之飛石付様之事

一路地庭より大庭地より事へ路地へ入腰懸不
 或ハ待合と云ふ路地の道本元太の宗と作る路地
 庭と云ふ其引けに在る書院の庭と云ふこれと用ふ
 ありと築く事と云ふ路地と云ふこと其の地庭廣と云
 せしむるは其の合おぬも他と云ふ

本本のいふことハ格遠なることゆへ人の立花と受け入の
 庭のまゝと云ふ程れ心と云ふこと大抵は其のまゝと云
 燈の端と云ふ程と云ふこと

① 張州義元公之路地庭之事 其の事と云ふは奥出ス
 けぬことと云ふ事と云ふと惠林寺祖格和尚と云ふ作の事

中傳つる處へ安んずる所を越えて二宮一連つる處へ

二 砂溪石庭井路地を敷寄金寄之事

駿河様御代要系法中にて銀路の所迄駿州府中
住居して茶通功者へん越の安んずる處中此砂溪後
一宮へ来て二宮へ用ゐる働と名を傳へ珠文法師
寶を寄つる傳の根源庭の式法より二宮一連とありあり
一敷寄庭後のつる書院を一連に住居を以て常代
とて後継するもその形より終られ後更むるに継
ぐるに知る者あり

三 赤坂道三入路地を敷寄金寄之事

路地の名を輝換れりとの名を輝唐鑑師の水を益とる

宮の山に家地ありとて出入り水ありみ写して八橋
一又張りしを合する家より路地を橋一とてとる
と築くは三入道文武ふらわぬ事知めて案に白備
もてあそりれり人地は路地の熟田を於て又人射とあは
れりト傳へり

四 敷寄庭上段住居之事

御先代 公方様御成事敷金かけありて堀田加賀後法不
らめて金森氏死に近之指圖必け上段庭の邊縁
より庭の内果木を定むりて水棚住居の邊も水棚
乃庭より庭の邊を敷式法と

一御成庭の砂庭をとりて植へる事あり路地

の式法ふぬうへへけいあ様より申う路地は八分端
一景路地はふねとて代付へ一本は地の字も
あつたふねとてふつひあつたふね

七 京極安知之路地事

銀路之景とてうつれつる景也勿偏りけ敷寄
屋とのけい極地を唐竹名竹多てあ合竹一ふ
用らるへ流石系極後あきい本法は慶應極
とい築まう庭也飛石も七つ宮石の珍味わり書
る庭も松竹梅飛石とて用られ何と本式之作法也

八 加藤肥後守殿新築之路地事

路地庭并飛石何と小塀を別之他おまへ路地は対し

中へ傳へる飛石の二石松の合合せ本式は路地庭
中出来緒事たりとていふ方ふ何と景も一
多あり橋柱の形とて流し用てあ合古今
前めく其景名も路地也橋柱ぬる穴のあけ
傳成といふ中あつた景も

九 古田氏代路地庭之景事

け露地うて廣くいふ景も人路地は代り
あつた作を不景景たのはけ地を介路地の
あつた代景路地ゆつてあつた景も人
ゆつた代景路地庭もあつた景も
あつた代景路地庭もあつた景も

石あり畧し記す

⑩小堀氏作路地庭之事

一腰かけ路地庭に杭を以て土を固めしむるを以て
りやうと路地庭の池に廻りて龍池と名を付す式は
必あり龍石石段廻るを以て土を固めしむるを以て
おらるき後世を以て格式也園系庭を以て名を付す
右一入地敷を以て一園内住居別記すい園は名を付す
堂古く堂古く名を付す一室のを井の中よりて三人
に方わけしむるを以ての記あり風流の園系あり
ぬ内より御書院の記あり 半鐘と名を付す
らむるを以て名を付す

⑪利休他路地庭之事

け路地庭之外の城之内の傍に路地庭を利休
作めて今も残るてあるその指図と写しし路地庭あり
を路地庭とて畧し写しし路地庭ありけ畧し人の路地
庭ありて畧しからんと思ひ撰てしむるありけ
外大徳寺にも寺外路地の図あり利休他風流あり
うの畧しけよと対する一勿論泉州城より利休の
造風路地敷寄住ありけ路地庭ありけとて畧し
を内侍の傍に畧ししむるを以て 半鐘と名を付す
えうの後の世より傳へしむるありけ畧しけ
と名を付す 記す

①酒井日向守致露地書院を之事

露地と云ふ人の利体はありて東より西へ茶漬と云ふ
旁より人を見へ露地投多葉なりけり然中酒井日向守
は其大衆前小陰奥之沖の所の露と露地を小写す
を代りたり露式とて内の家通並に感興ありし
又書院之趣は泉州堺教寺屋大工おき湯ふきの露
法師の水末傳習りの也去へけ年を砂溪形を露
化也松竹菟藿石祝義二宮の露奥より葉なりけり
うもやうん事いれありけり露書也

②越前太守露地を之事

は露地は火事ありて越前太守の露地ありて泉州指書へ



山水の泉州堺は天子を宗勝茶屋と云ふ人おきとあ
て宗勝指南之露地法師の露地傳受と云ふ露地ありけり
式と云水玉洞如西湖形なりやけりと云へり露地を露
取也水池の格式を本式の露地なり露地形を本式と
れ露地の露地と云ふ事この露地の露地と云ふ事又露地大
人へ露地の露地の露地と云ふ事この露地の露地と云ふ事
知拙露地ありけり露地の露地と云ふ事この露地の露地と云ふ事
之露地也

③西一柳氏露地を之事

露地は火事ありて露地の露地と云ふ事この露地の露地と云ふ事
といふ人の露地の露地と云ふ事この露地の露地と云ふ事

い書院を御成庭の格とい葉之

一柞の水と六の款の御誕生の法座とよまるといり

其時生湯九頭龍王八功法とて出た款の生湯と瀧

給也と云瀧乃始ありとてある事ハ瀧之為横九色と

一布落と云ハ布とてうかけぬてこゝに落瀧也

系落と云瀧ハこの乱れうとてくよ落也

廣落と云瀧ハ瀧口と廣なる瀧より瀧坪とてゆ

みく落也 一云落と云瀧ハ瀧口より落也

一青苔石 山の腰ありとてふ了也

一壽命石 此言石におの瀧傍了也

一富貴石 石の瀧横のものに了也

一かけ石 瀧の洲傍に可也 一對面石 瀧邊

れありあり 一月宿石 瀧廣の中了也

一竜うり石 ひろくのろへ 一虎卧石 虎外形を

了也 一通天石 石を橋あり時ハ日と名月と名也

一三石 石けとあり向う又ハおの瀧より了也

一三石 酒とあり向て瀧邊に可也

一主人石 此言石也 一水門石 中流橋のありとて

一亀石 河中了也 一鶴石 瀧邊の石の亀石と向

て了也 一水分石 瀧坪向て了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一石名石 瀧底に了也 一鏡石 瀧の底に了也

一杜若石竹かといふ所の溪石の石にて植也
 一竹ハ糸の溪石もあてハ尤も家あてハたより植也
 山水集申ス云々靈石也といふ處田園かハ山に添へば
 我朝月明又雪の清字字活之平等院ハ他院を後南
 都東大寺又ハ興福寺といふも深作也
 一月本庭ハ瀧山といふもしるもく馬也作也 一河原寺
 二又あすしり糸の溪石もあてハ尤も家あてハたより植也
 續石之仕換之事
 一石をあてておろし敷き集り下地をのり敷きおろしつゝいふ
 叔と上へるを付録の如くおろしつゝいふもあてはる根
 敷のあてはる根敷の如くおろしつゝいふもあてはる根

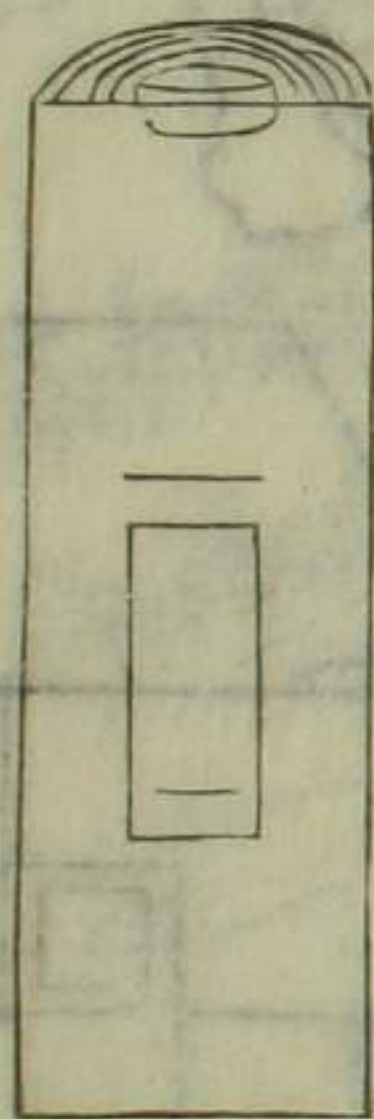
路地扣土之仕換

一石灰八升 一塩四升 一糸入土 七斗

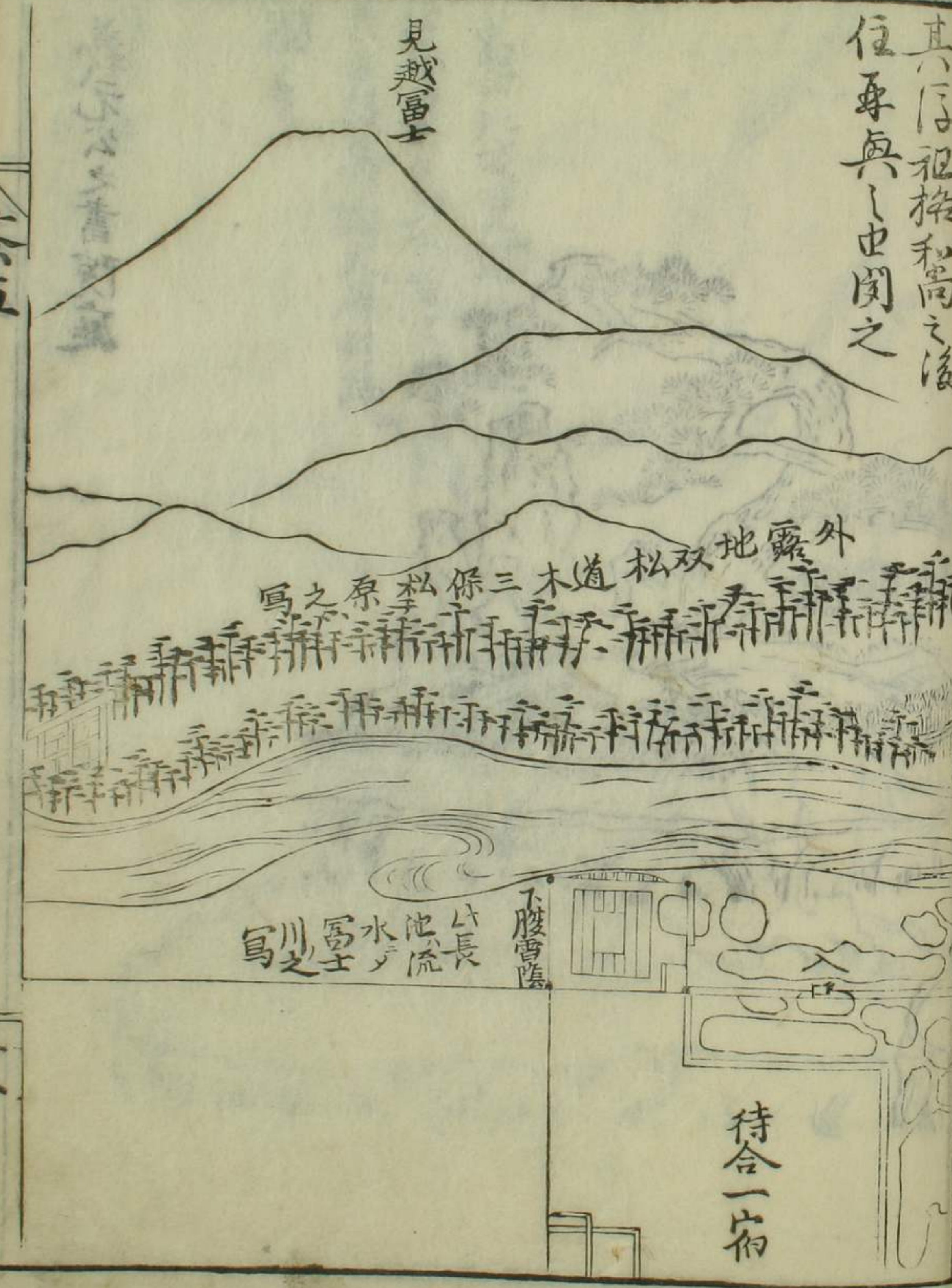
右多合唐臼入ふ一五目り又臼入ふよりいふこ
 の根木印より油入井へ塩二升三升又印より入
 物よりく推つてあてはる根敷の如くおろしつゝいふもあてはる根

本口ハ土を漬めて中よりあてはる根敷を七寸ぬき穴より橋の
 ひつりよりいふ根敷より三寸ぬき穴の長さ八寸より二寸七分

橋柱圖

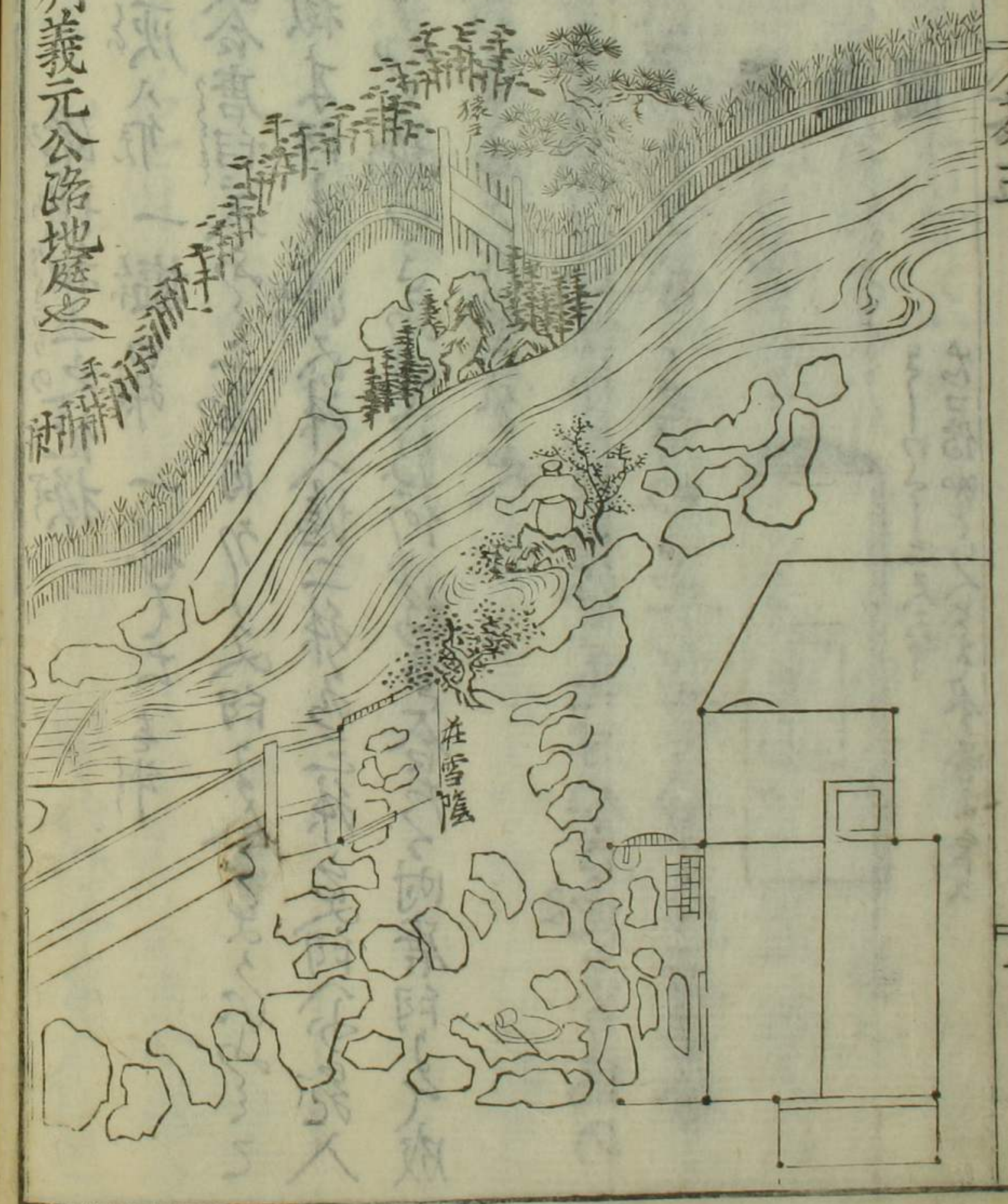


一ノワツ二尺五寸
 大口橋柱といふも今もあてはる



其心祖格和尚之後
任再與之由因之

一駿州義元公路地處之



義元公之書院庭



外景氣可有之然

卷一

富士此方見也北庭
外景氣可有之然
共古跡圖必大石計殘
圖多

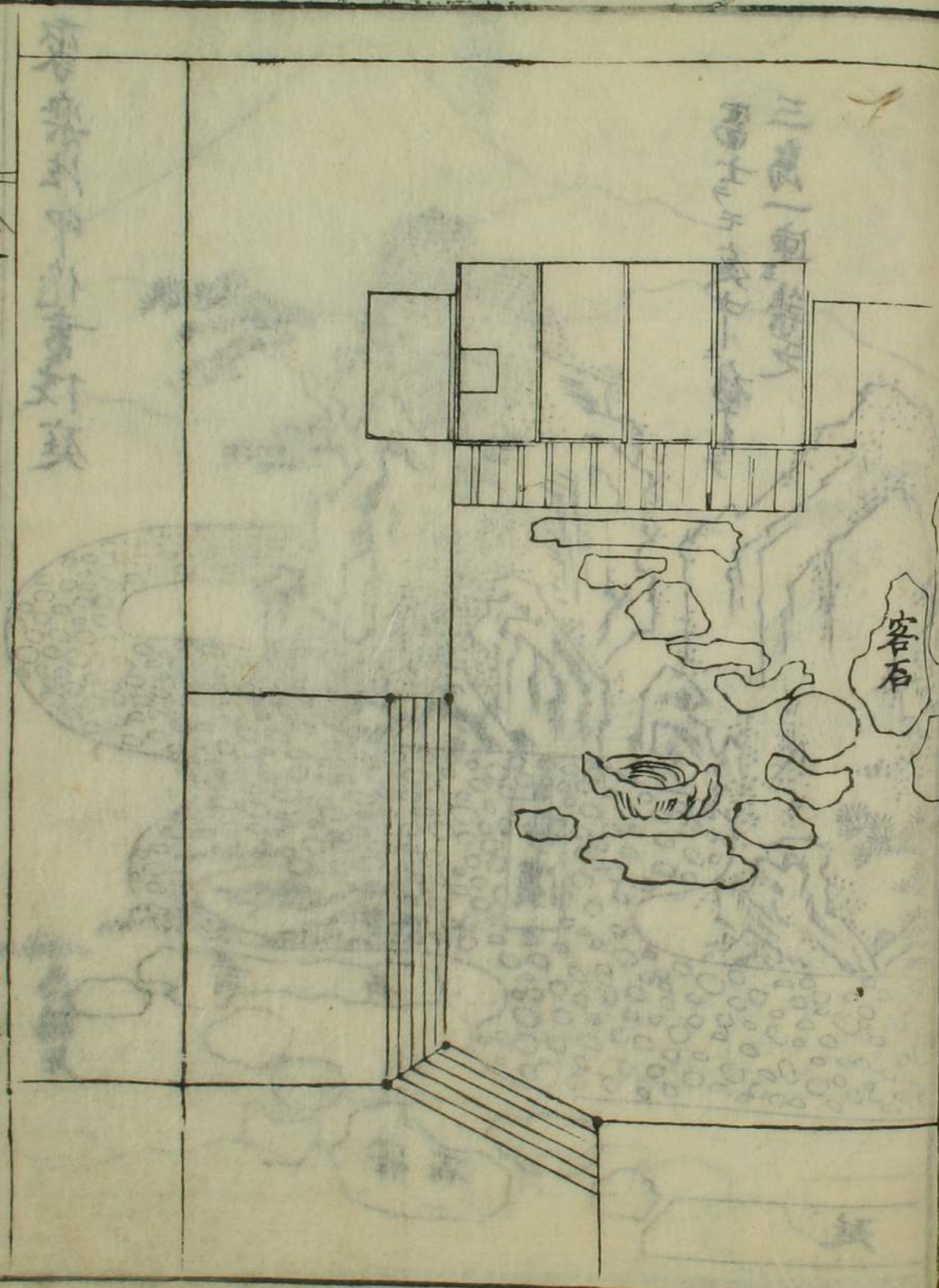
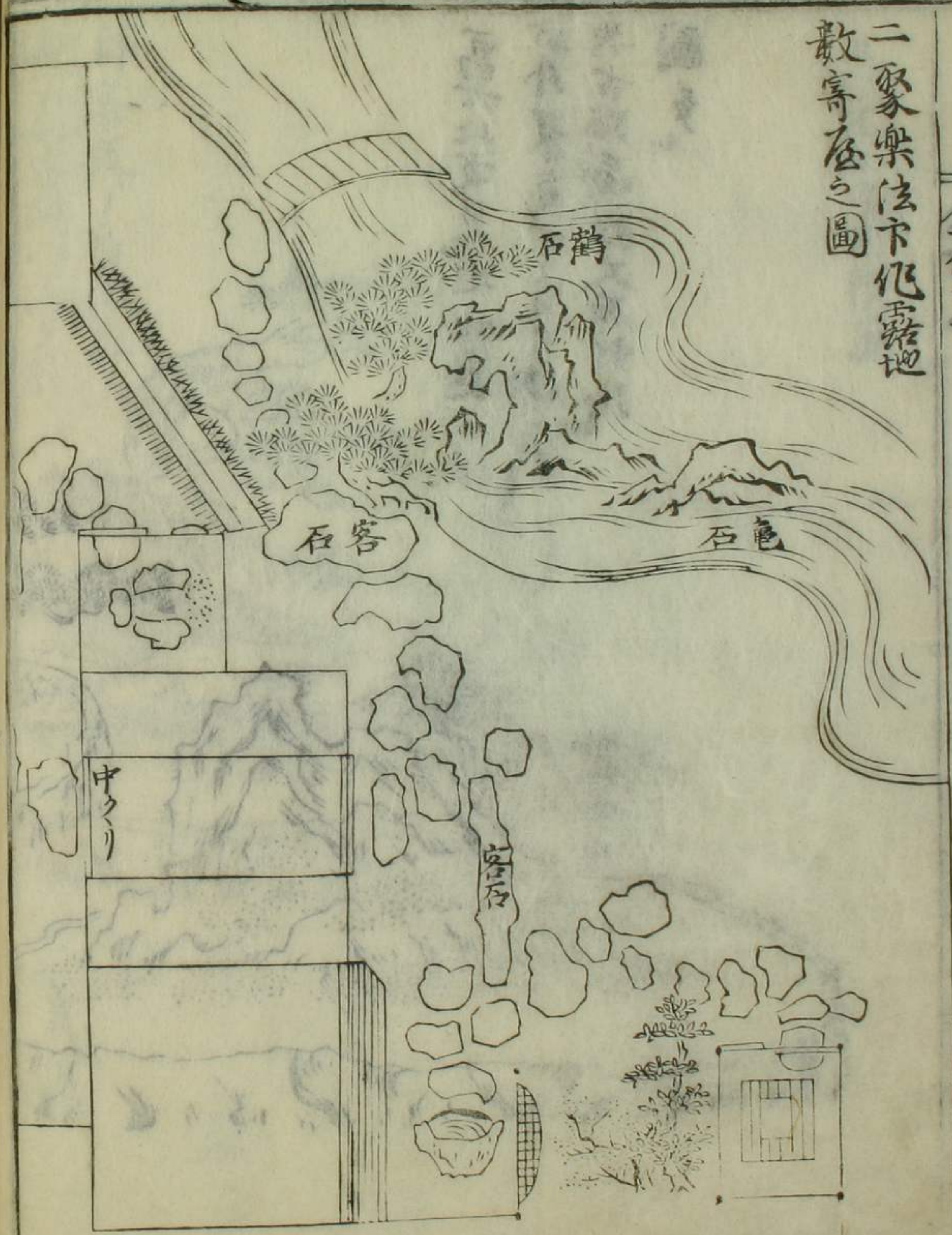
二景氣可有之然



卷一

卷一

二象樂法下化露地
散寄石之圖



聚樂法印住持書院庭

富士ヲモ庭中ニ秘メテ
三島一連ニ築之



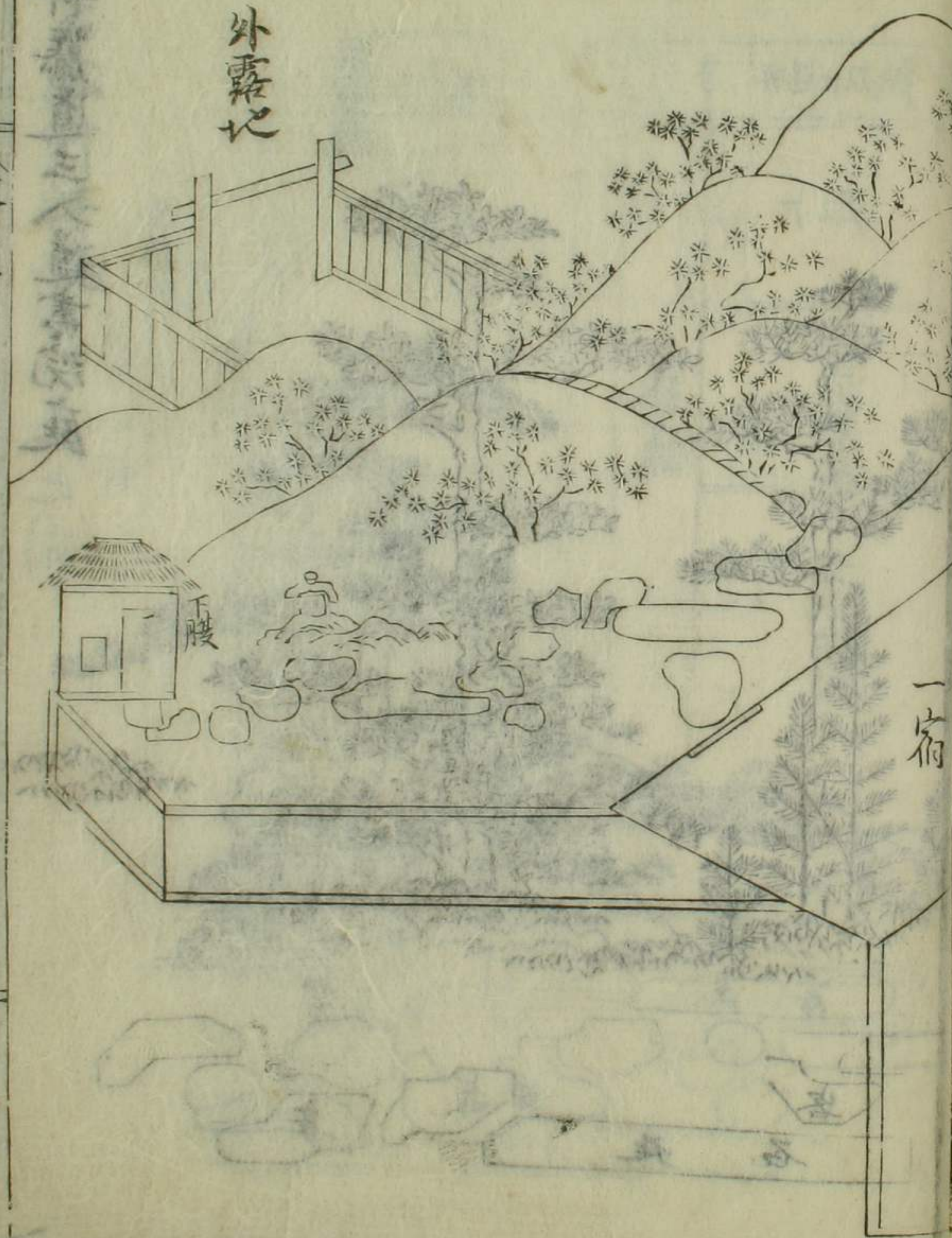
見越富士



三齊藤道
三入道露地
板寄屋之
圖



外露地



齊藤道三入道書院庭



客

石 延

客

右松竹平庭

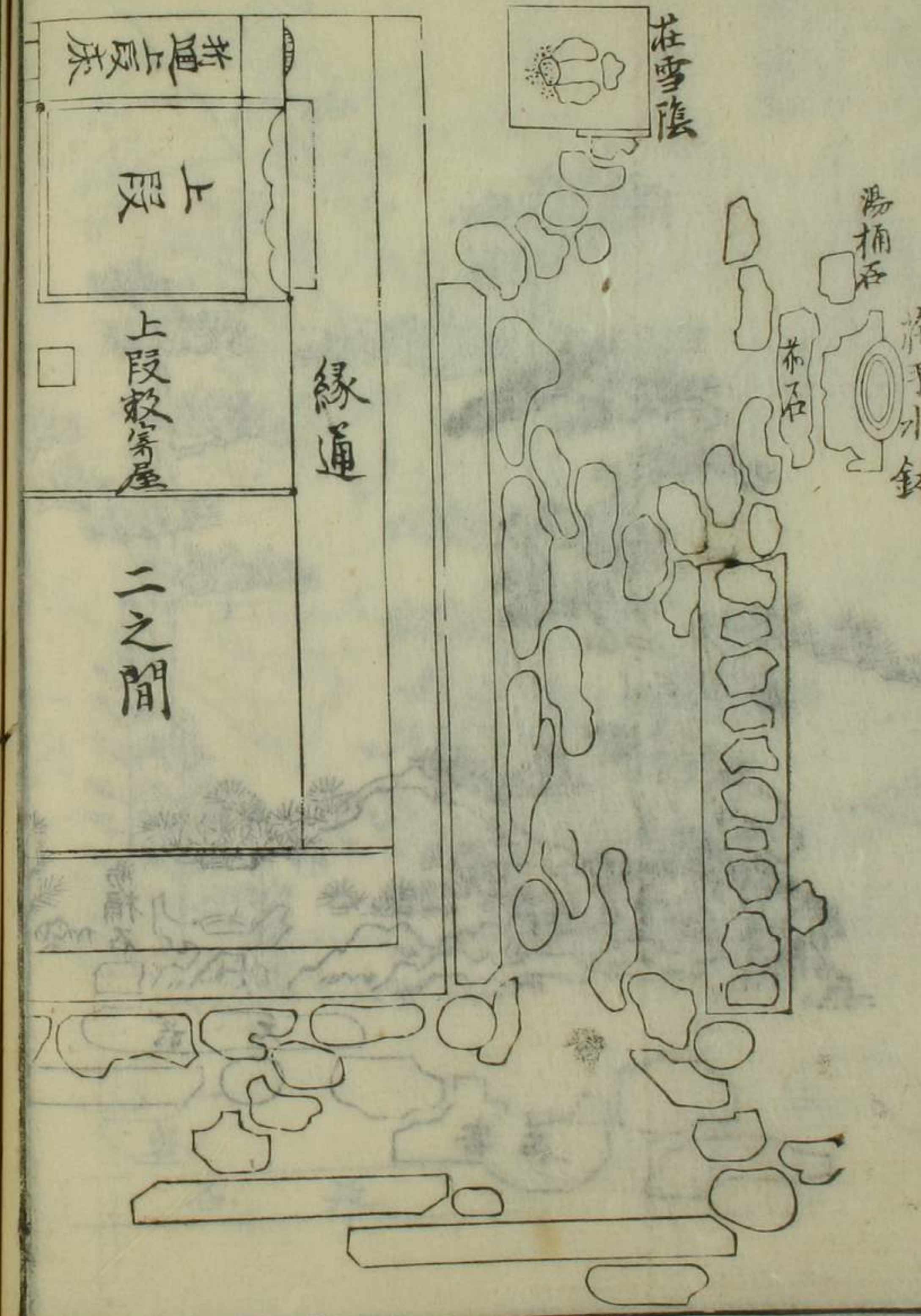


湯桶石

石 示

石 客

四敷寄屋上段住居之圖



在雪隠

湯桶石

在手水鉢

赤石

縁通

上段敷寄屋

上段

上段敷寄屋

二之間

上段

上段

田田實録

卷五

七

堀田加賀殿御成之庭

卷五

十七



龜石

龜石



鶴石

鶴石

堀田加賀殿御成之庭

卷五

十七

祝儀之庭



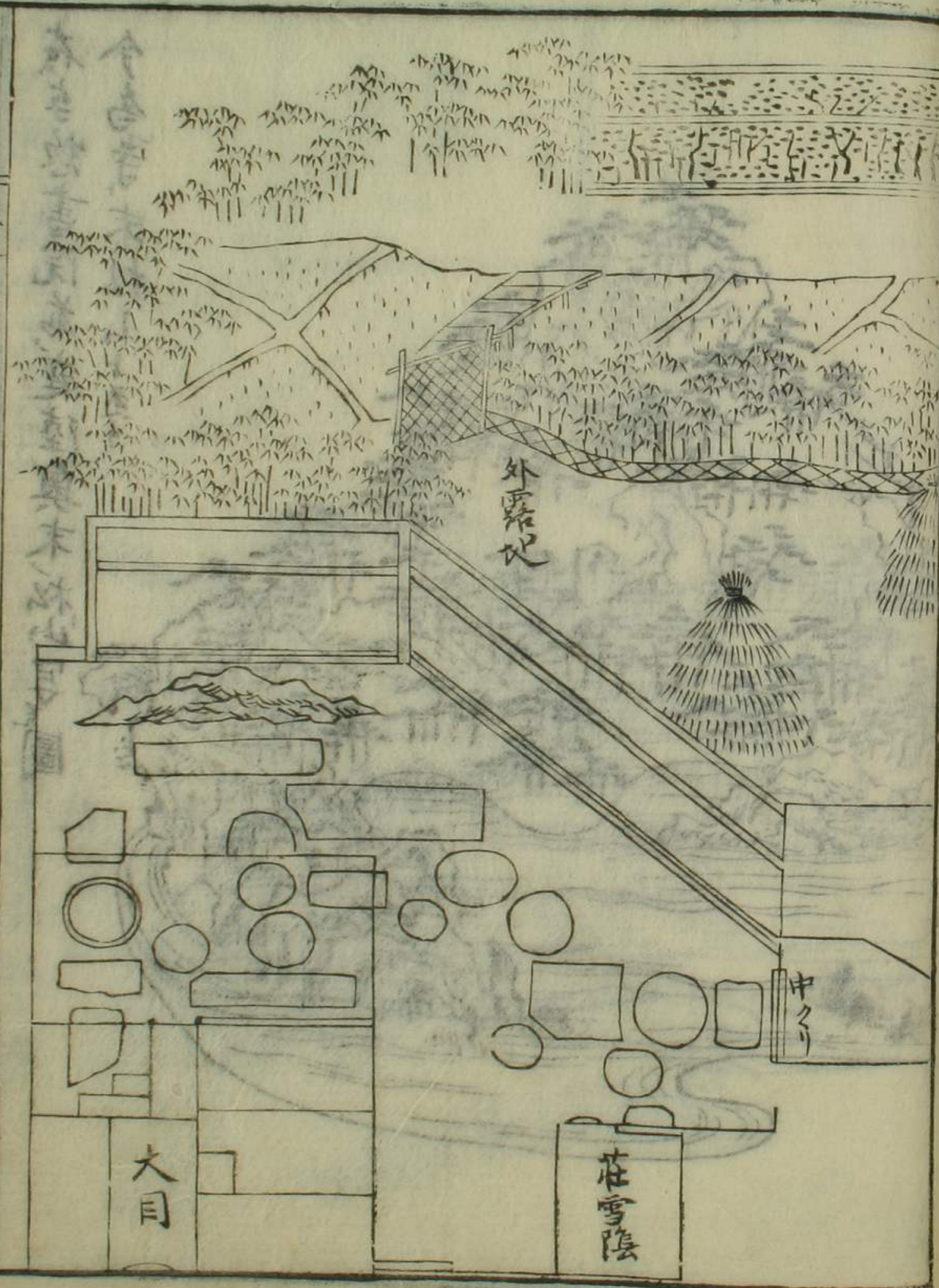
石 龟

御成庭之格式如前圖
若有御好看以此作之

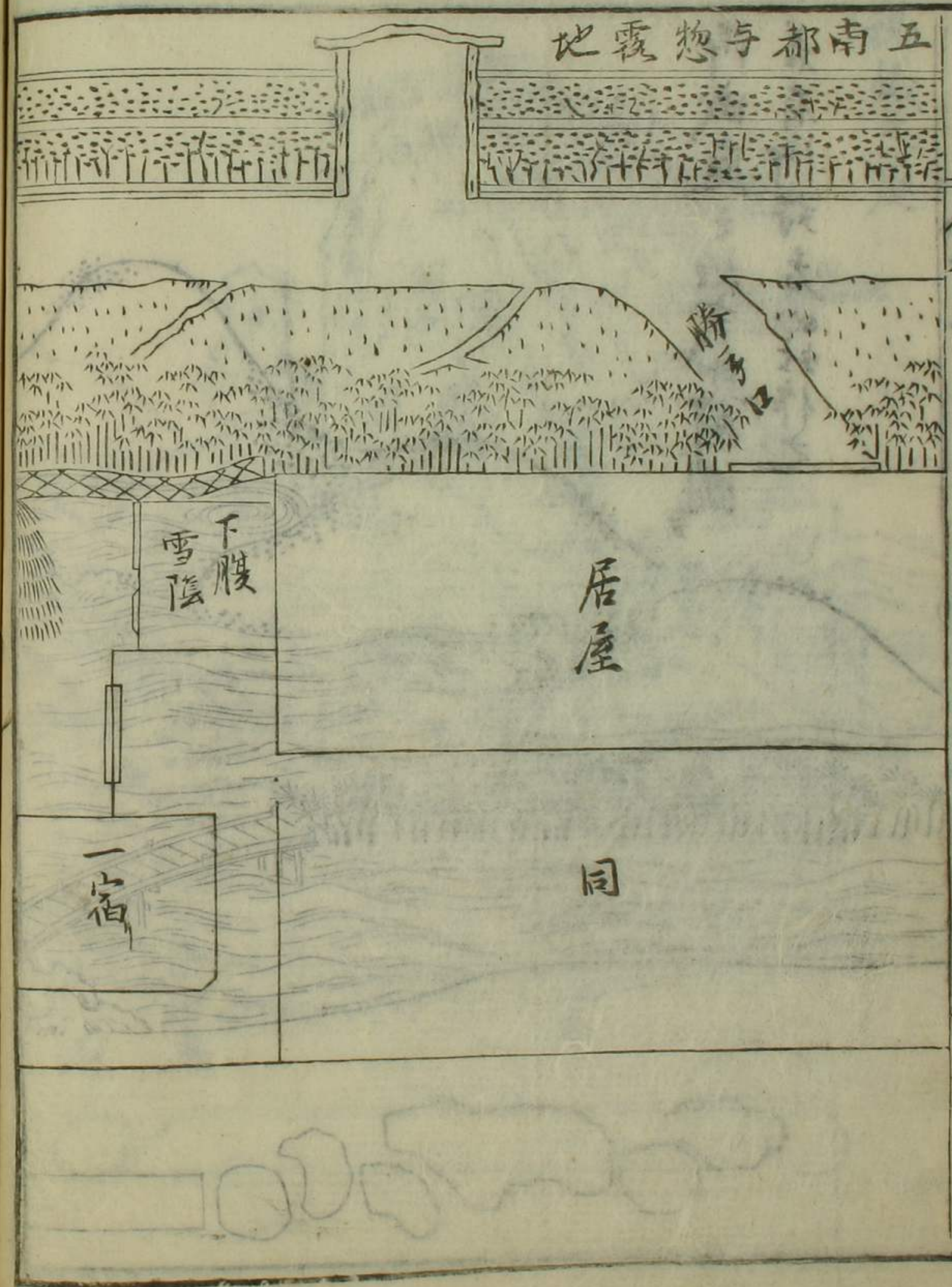


卷五

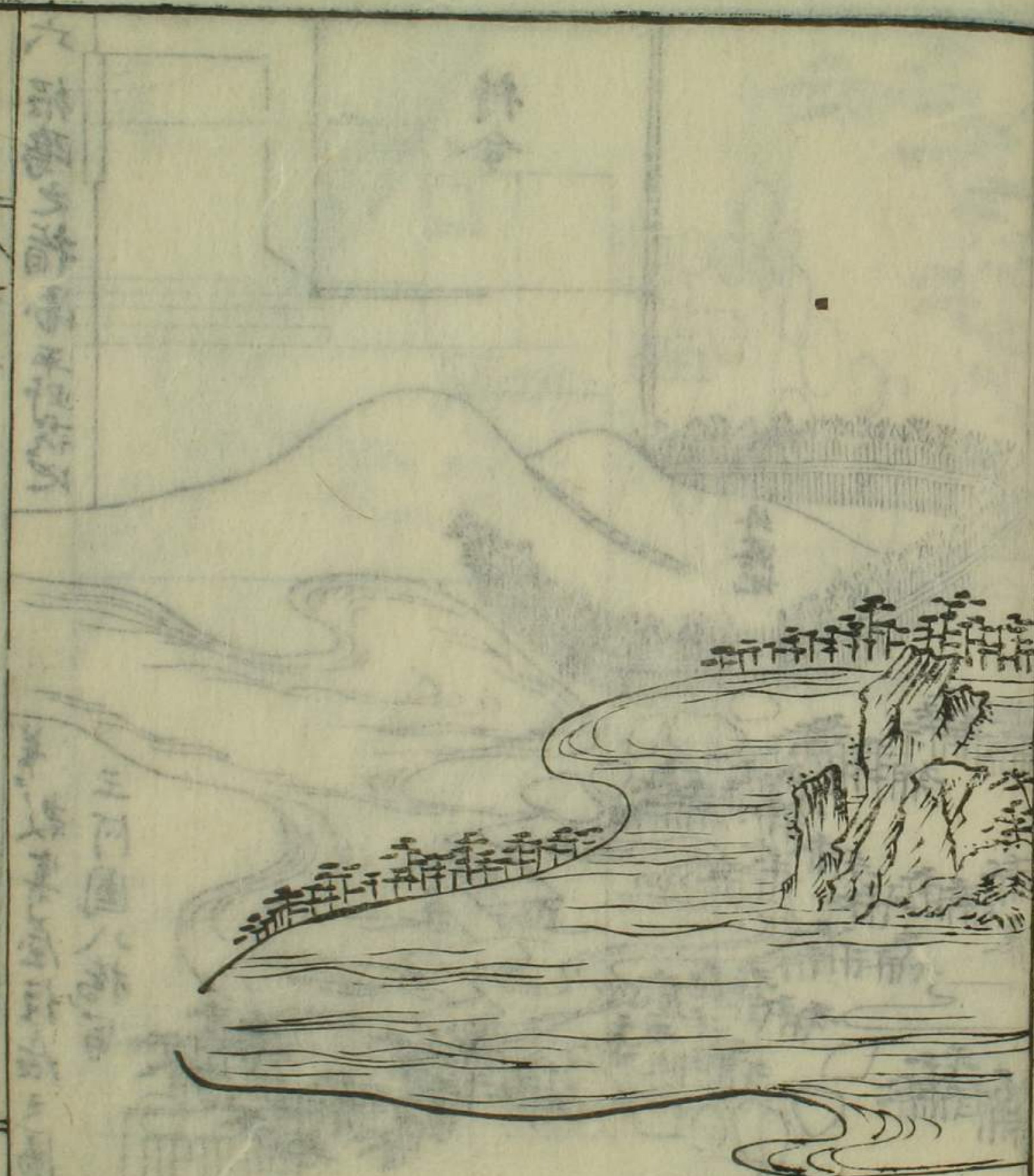
十



五南都与惣霞地



在寺惣書院前庭陸奥末松山寫圖
今為寺末松山上云々



大坂城入道寺末松山

三日月入道寺末松山

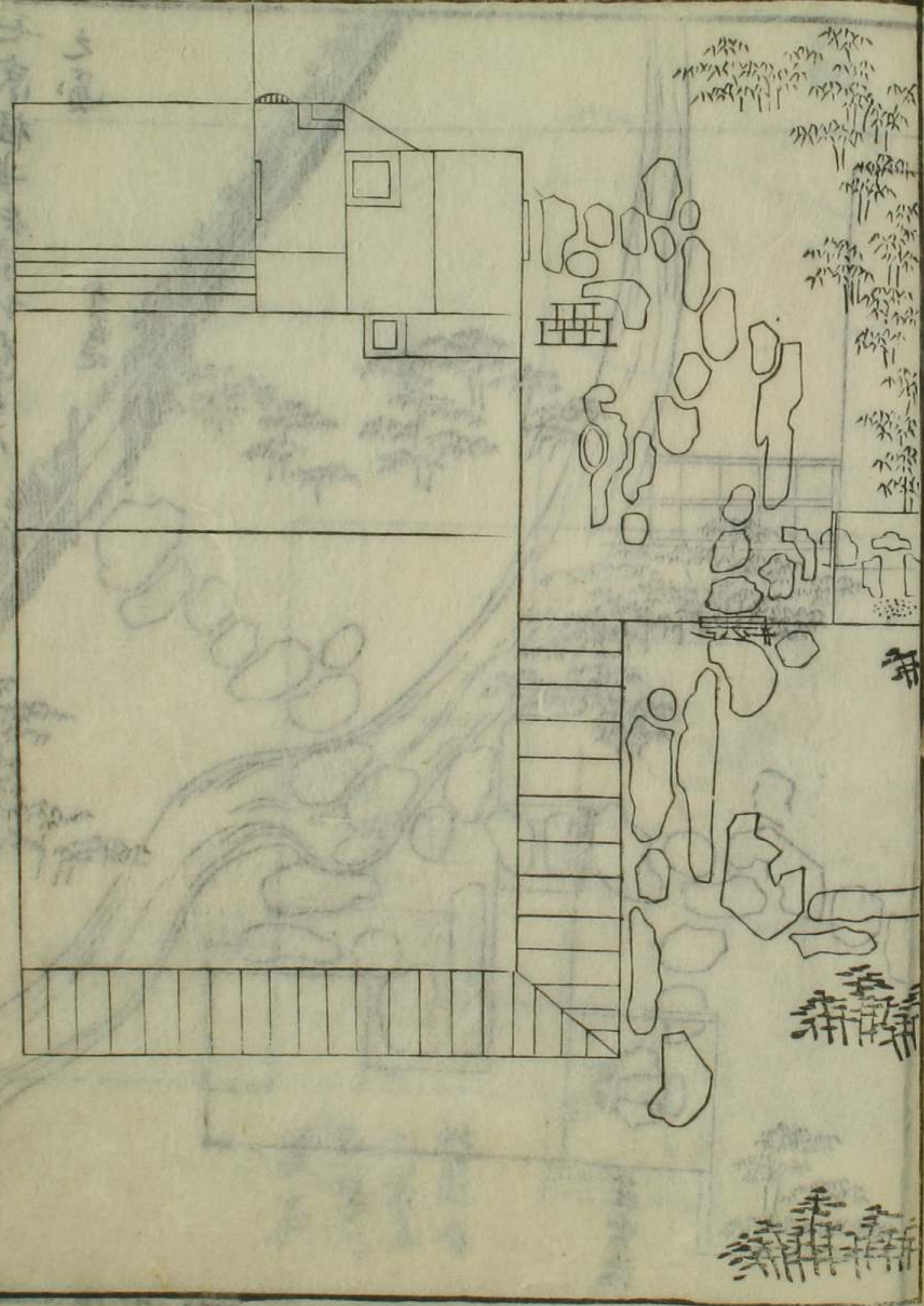
六招鴨之指馬平野露池

待合

外露地

兼敷寄屋位居之圖
三河國八橋寫

下腹
雪陰

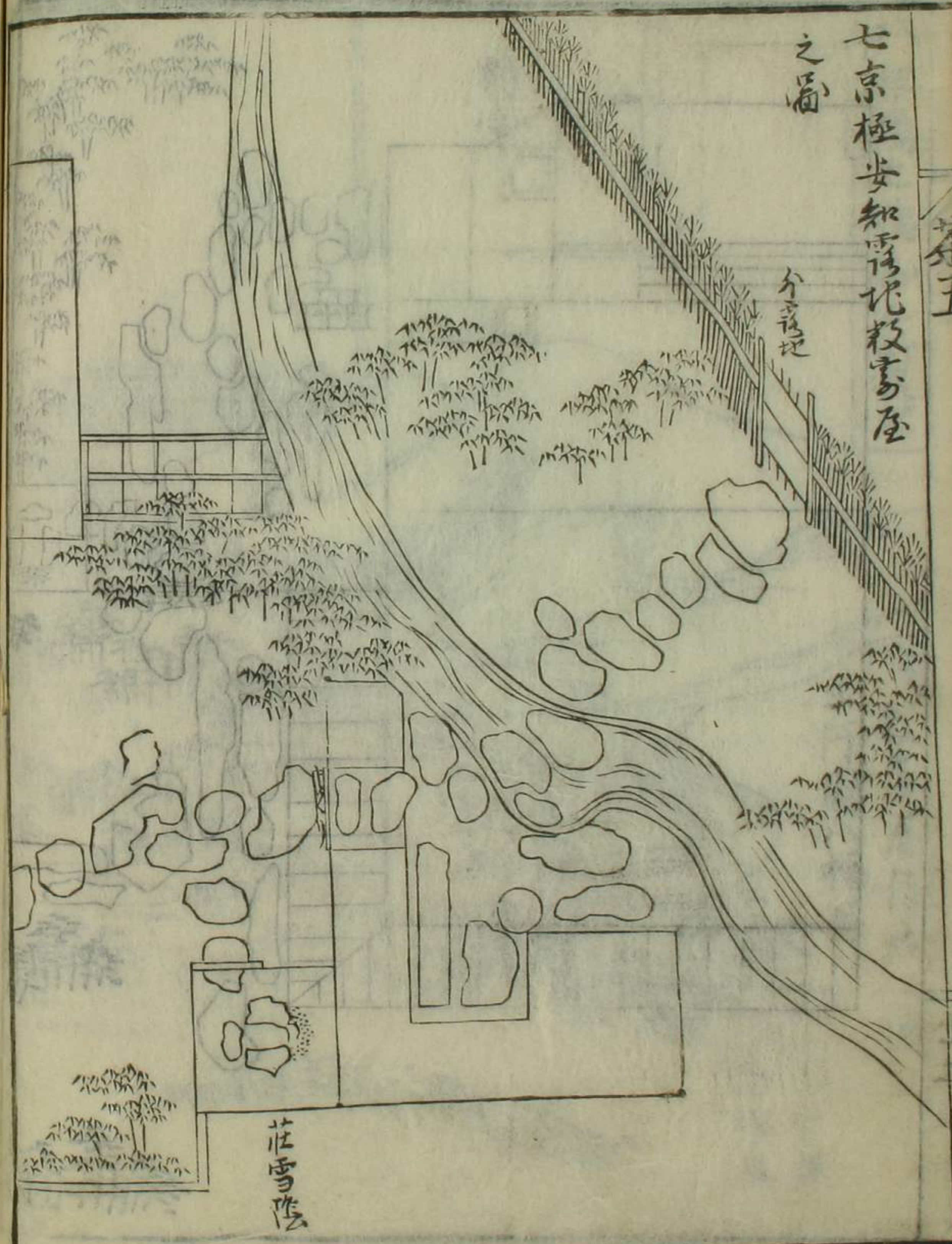


七

二

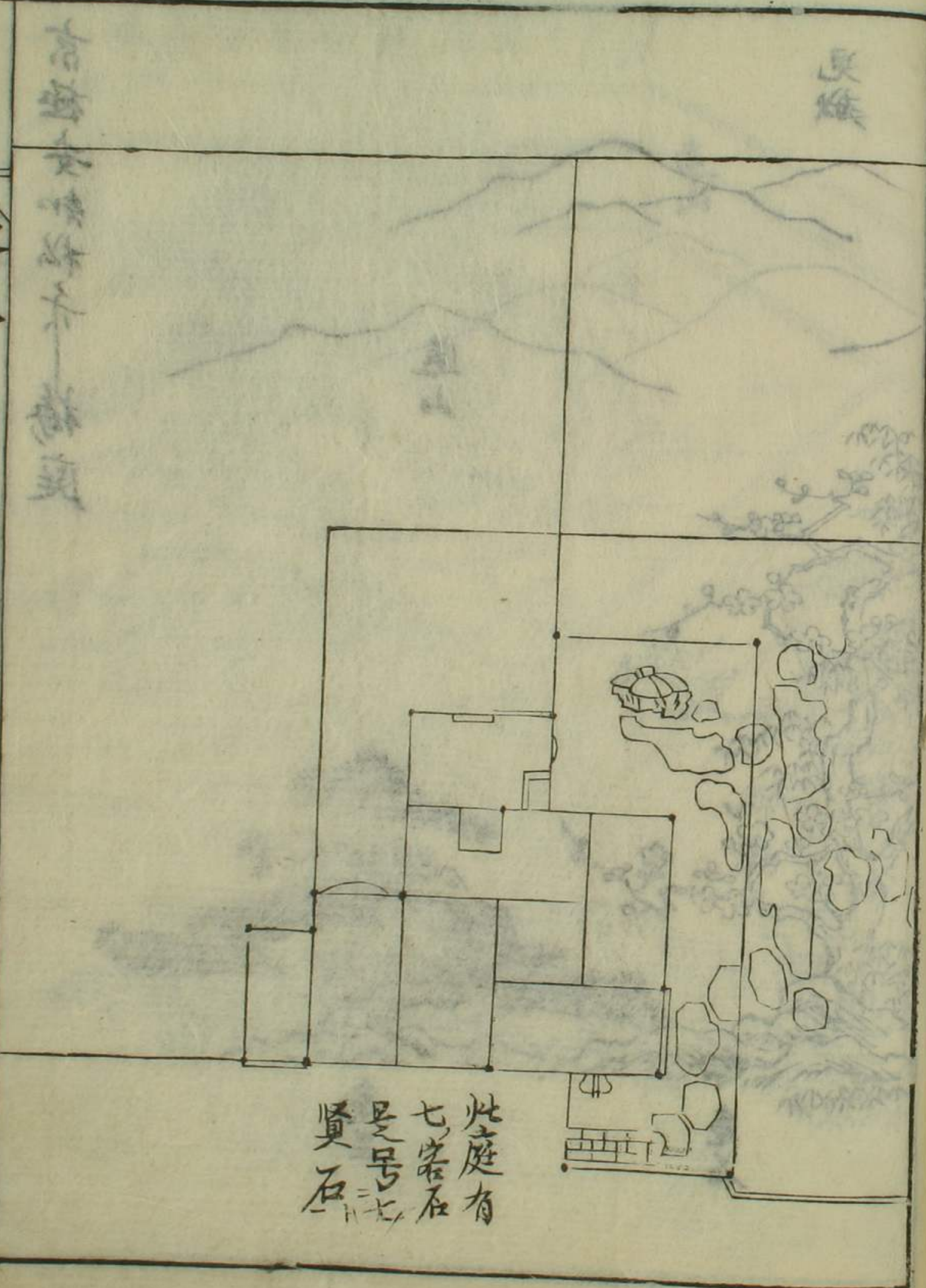
七京極安知露地教書屋
之圖

介路堤



北山雪隱

東嶽



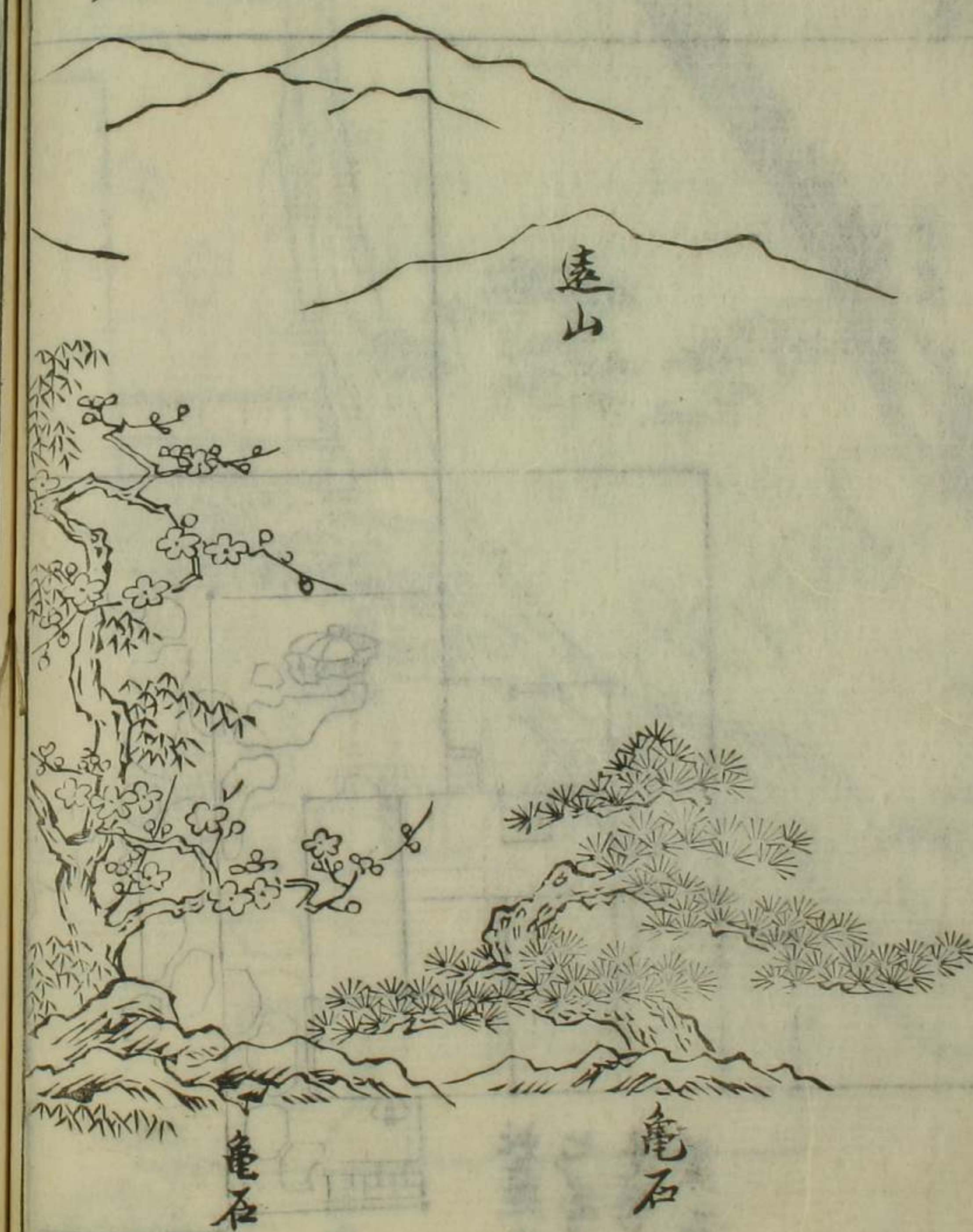
此庭有
七客石
是号
賢石

七京極安知露地教書屋

京極安知松介梅庭

見

遠山



亀石

亀石

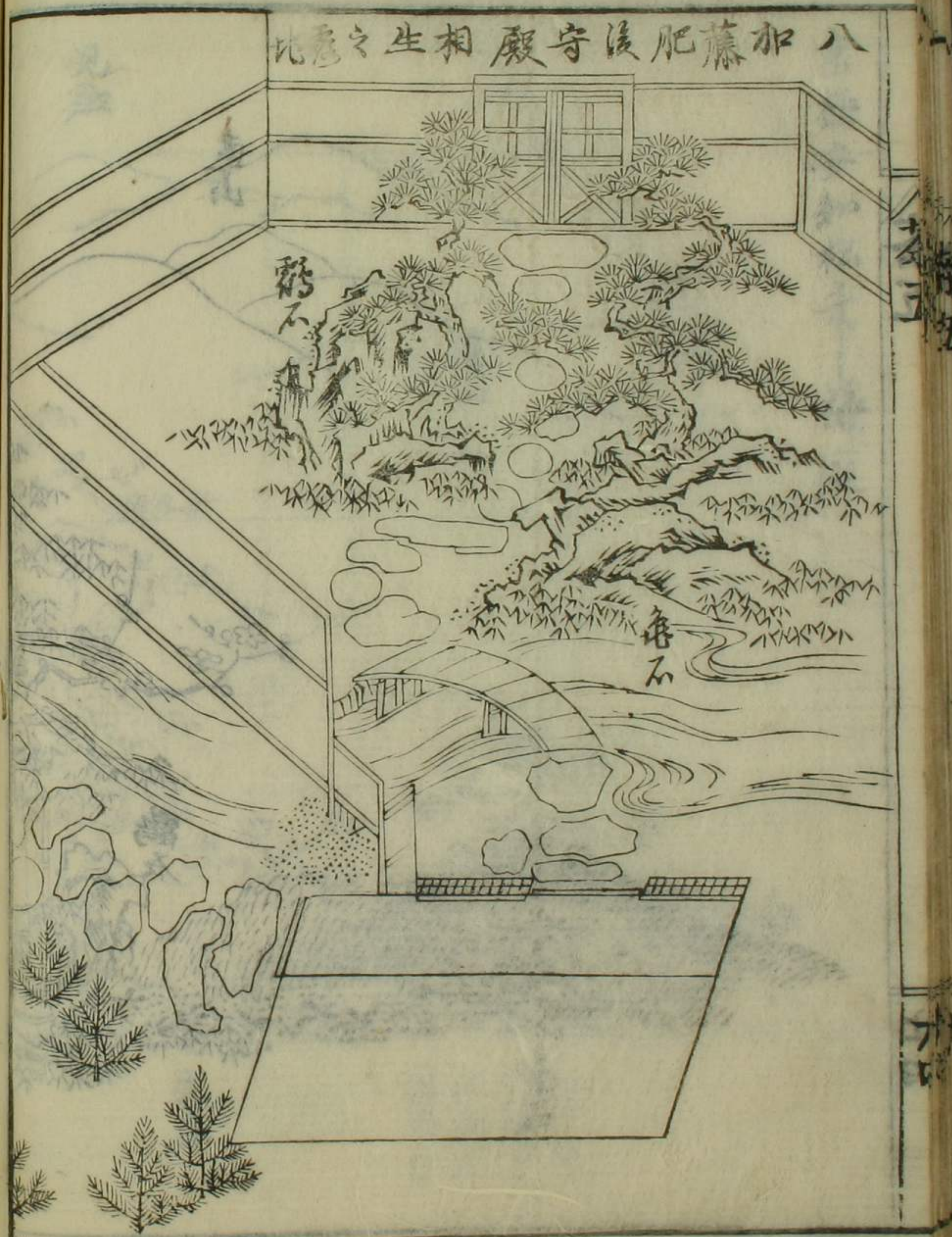
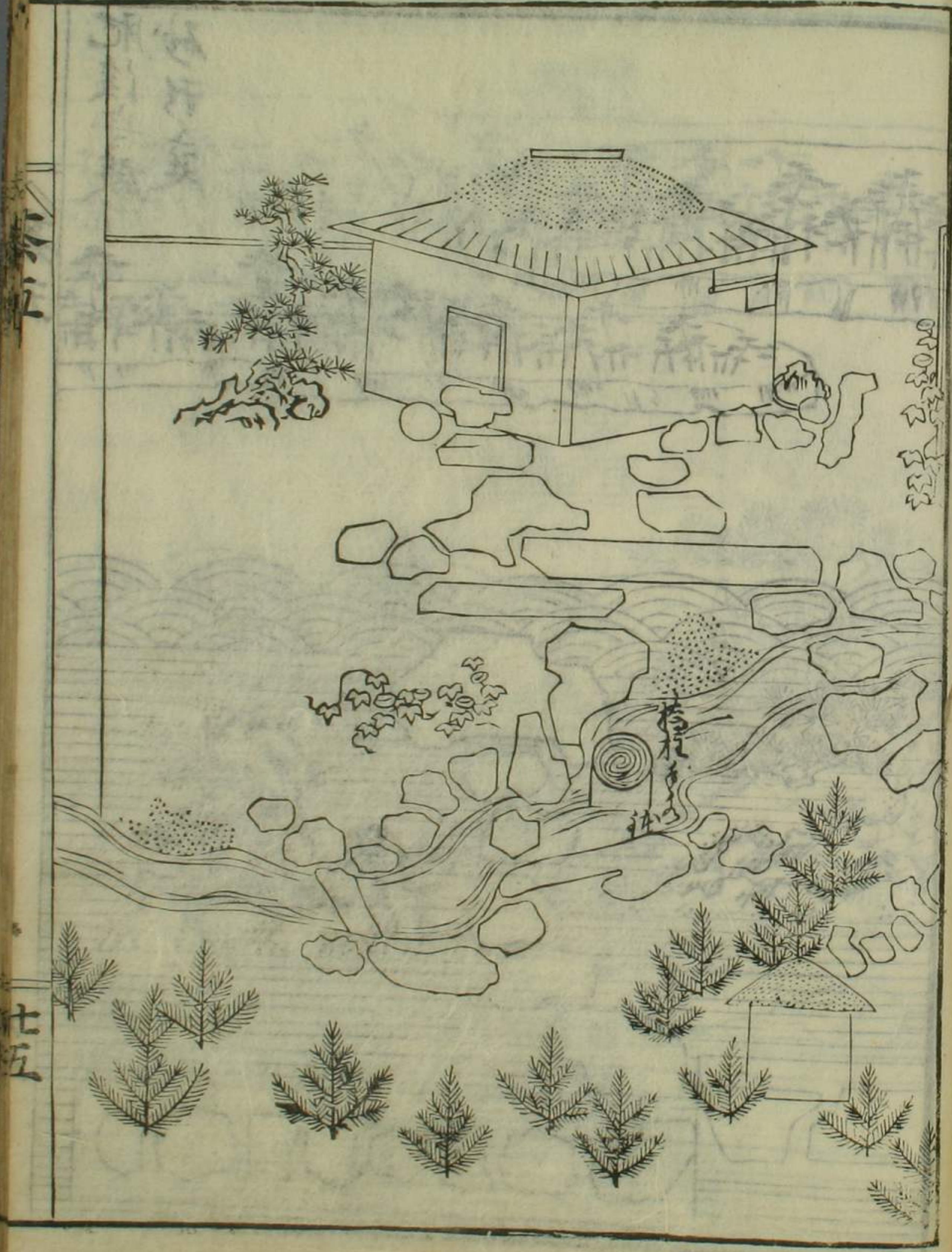
遠山

鶴石



五

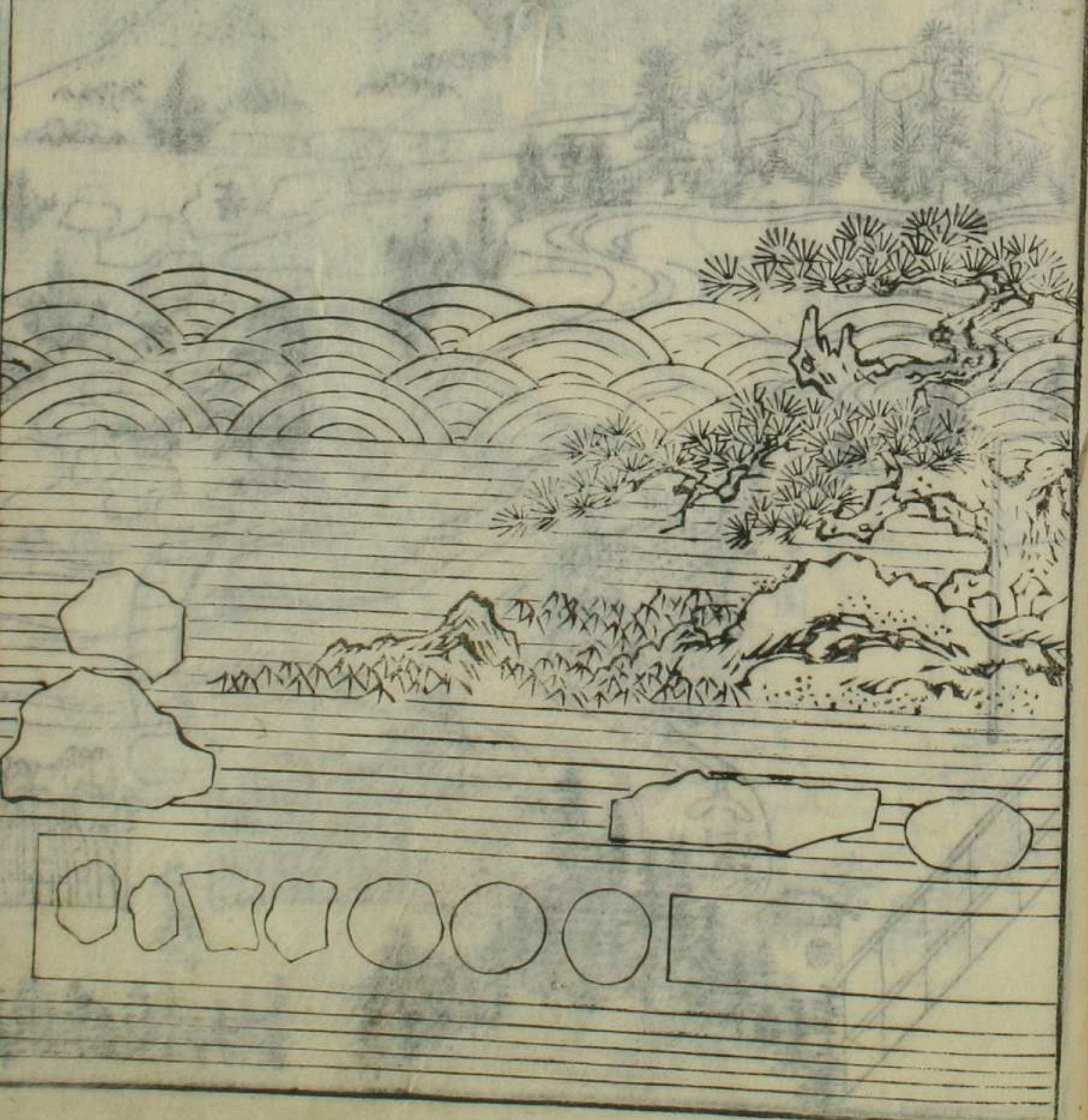
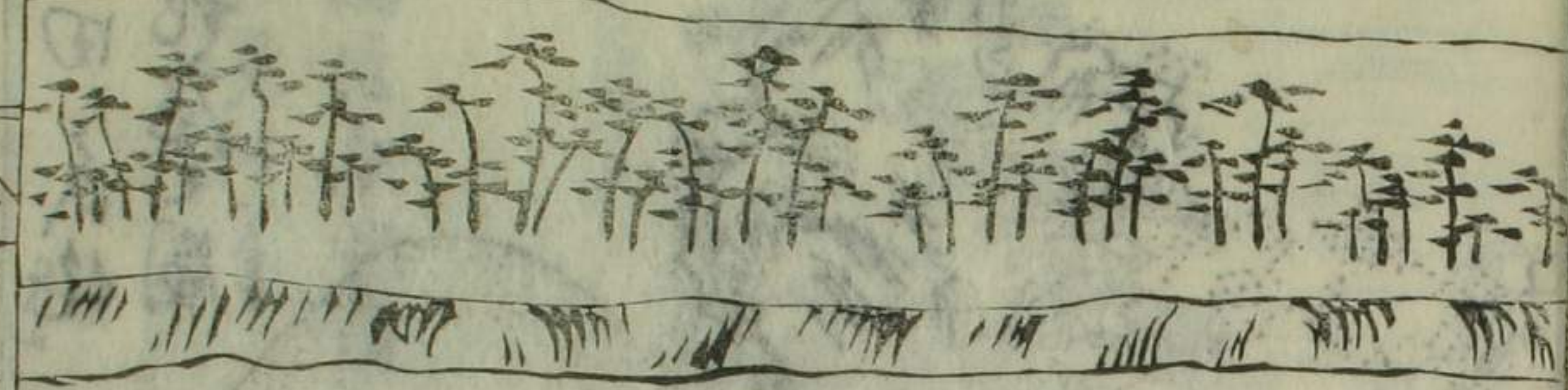
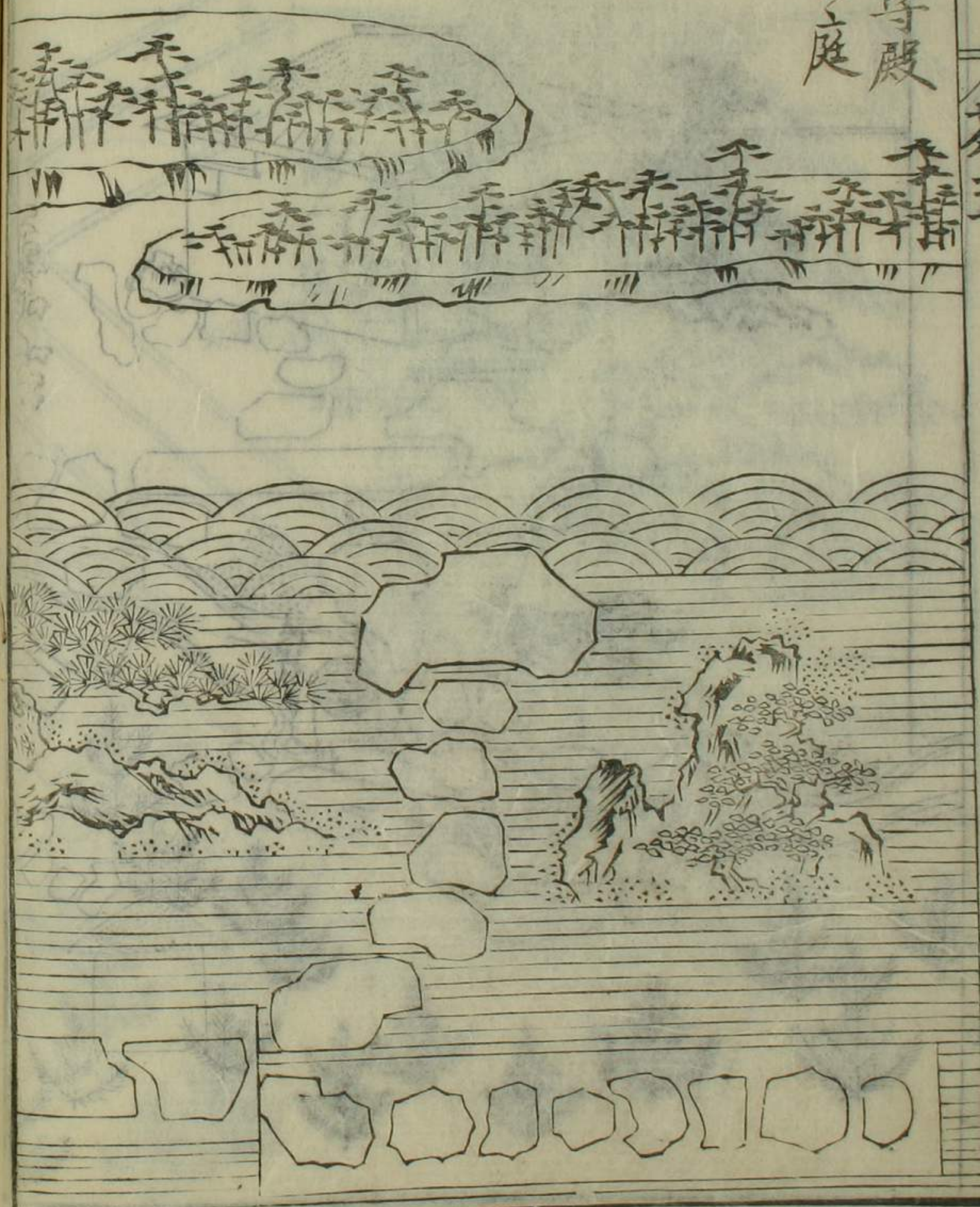
七四



八加藤肥後守殿相生之居

肥後守殿
砂形庭

茶五

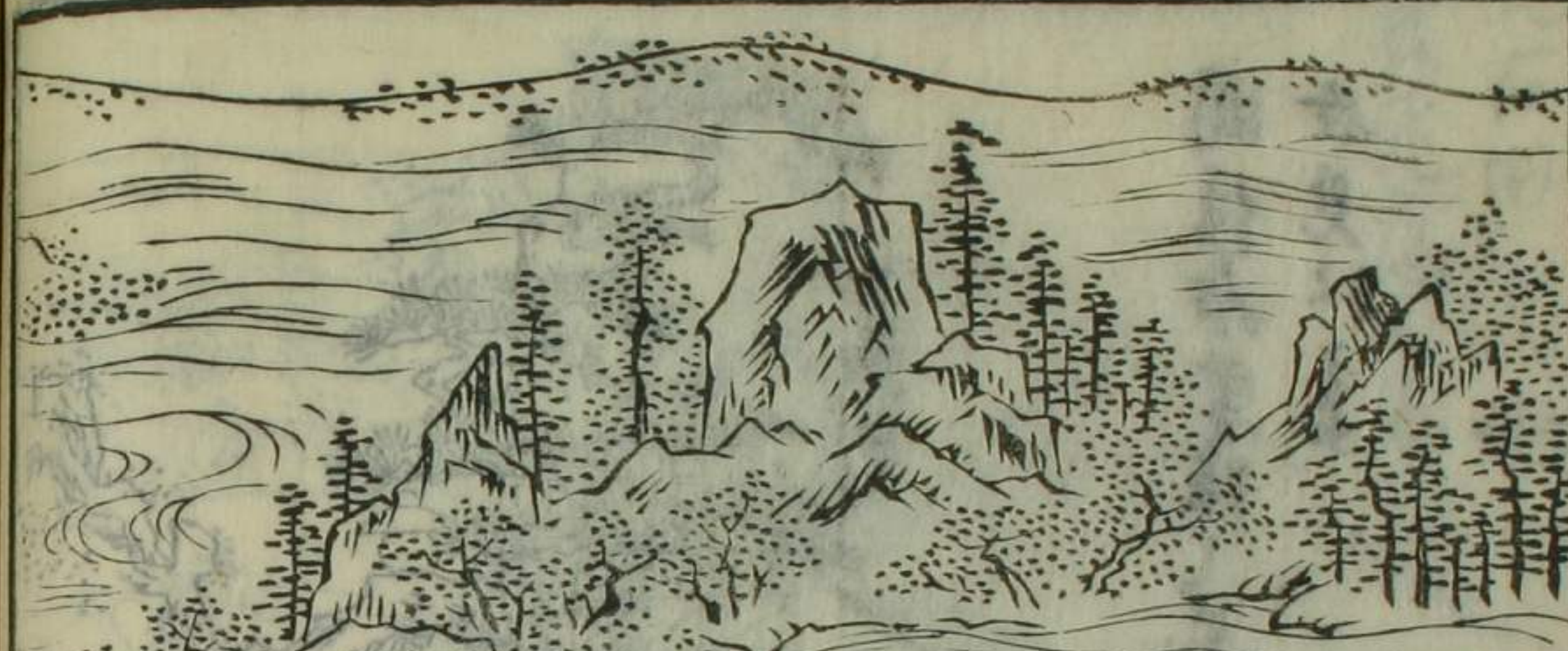
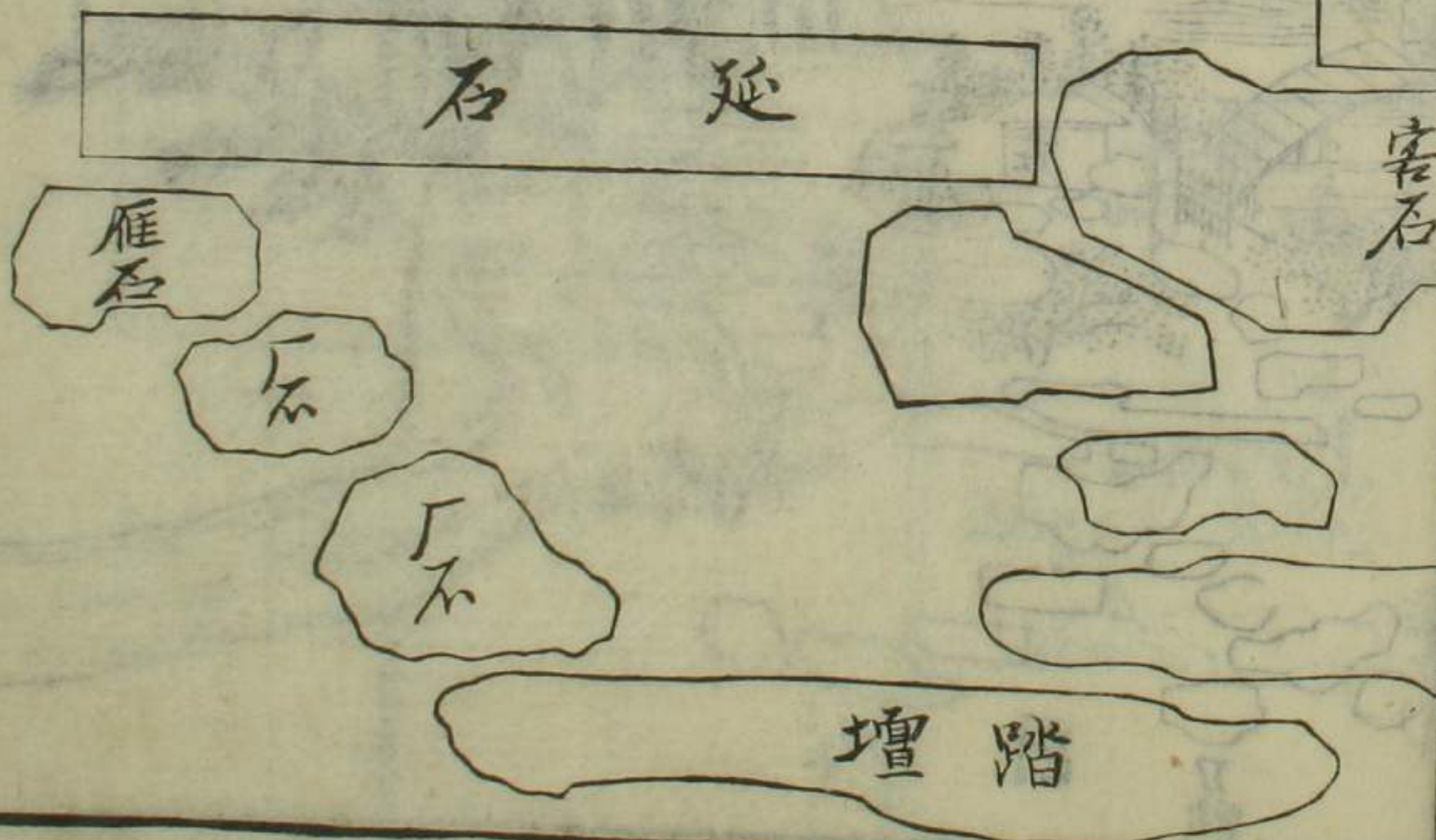


九古田氏宅
露地庭之圖

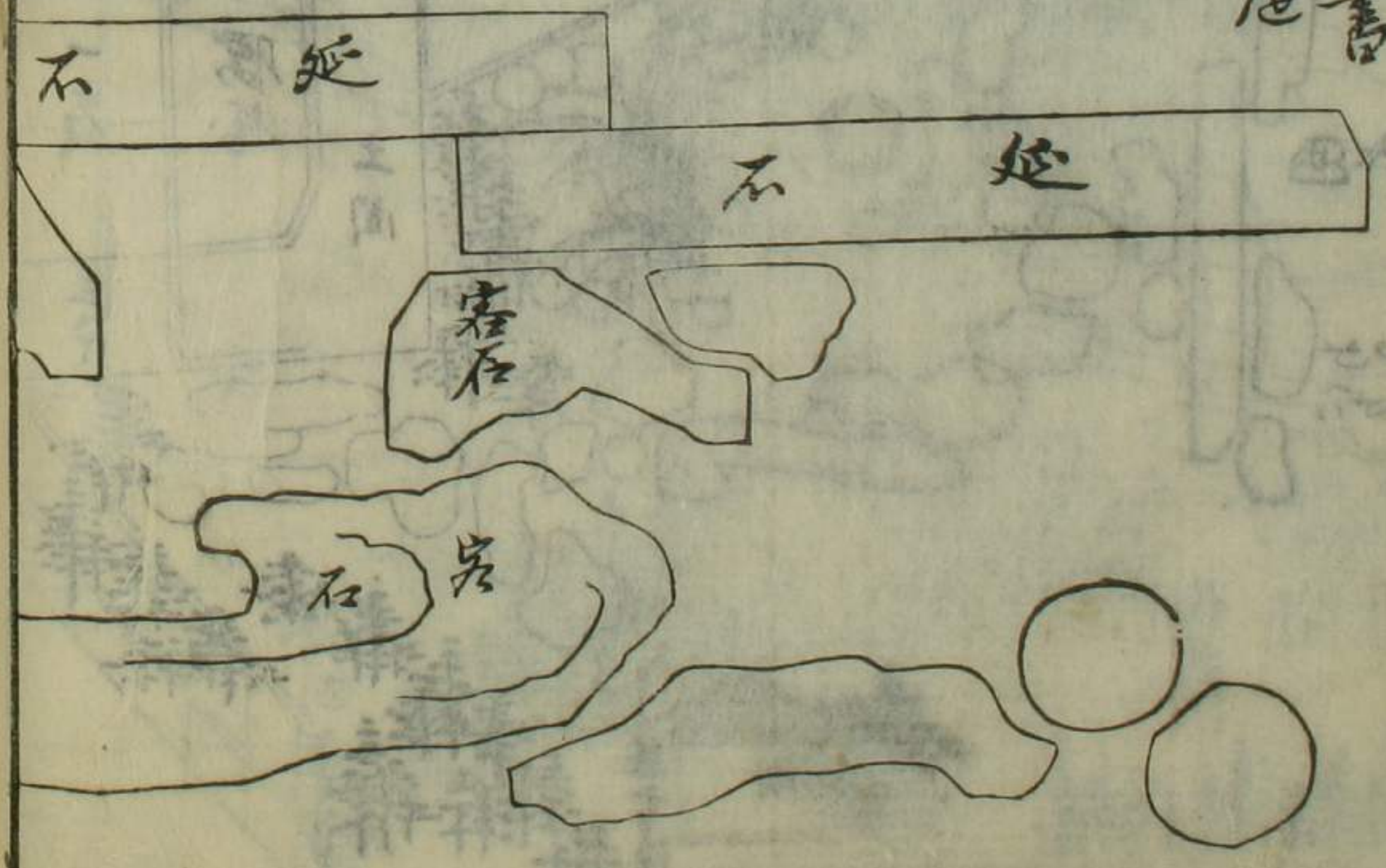


園住居雪隠之湯
各見此書



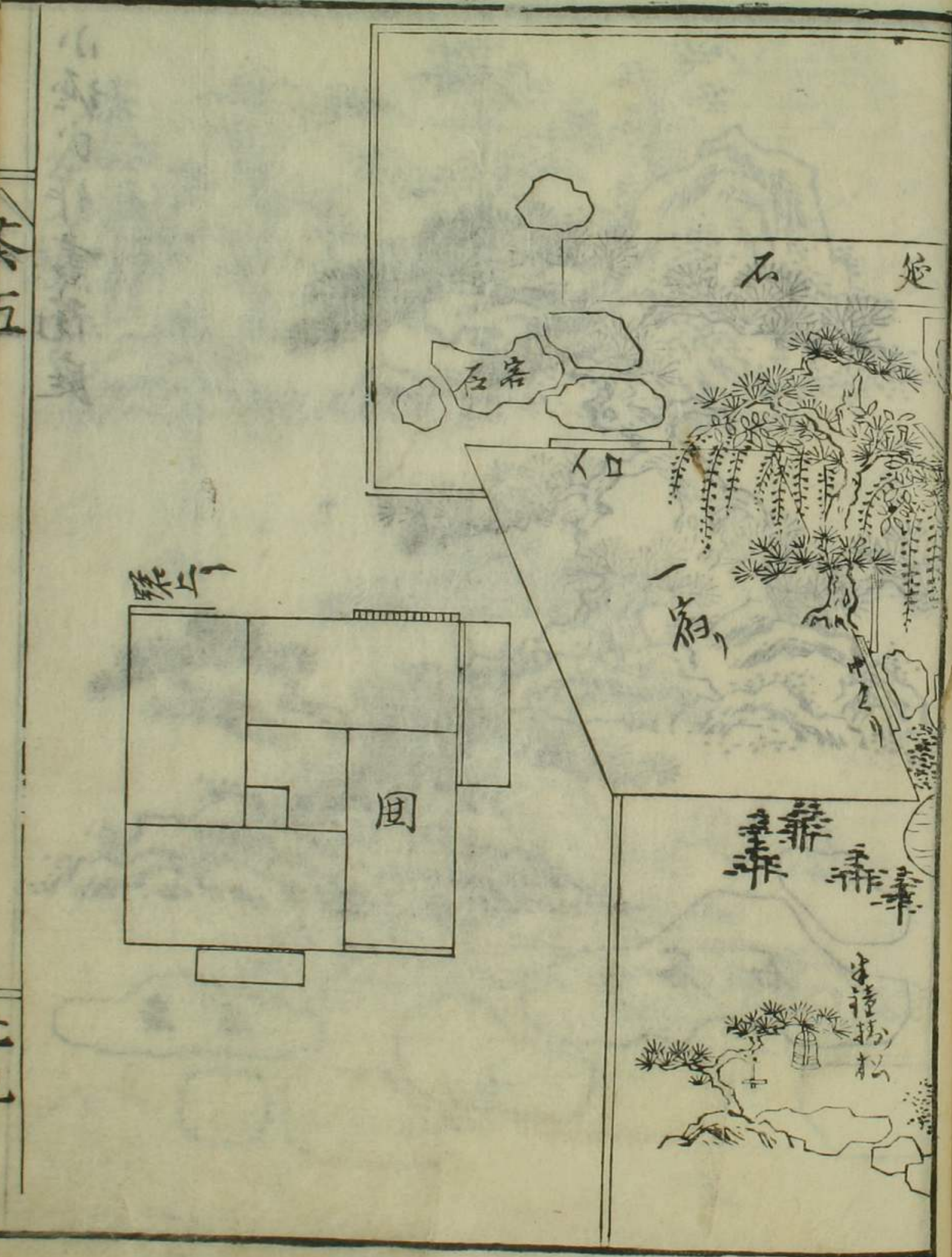
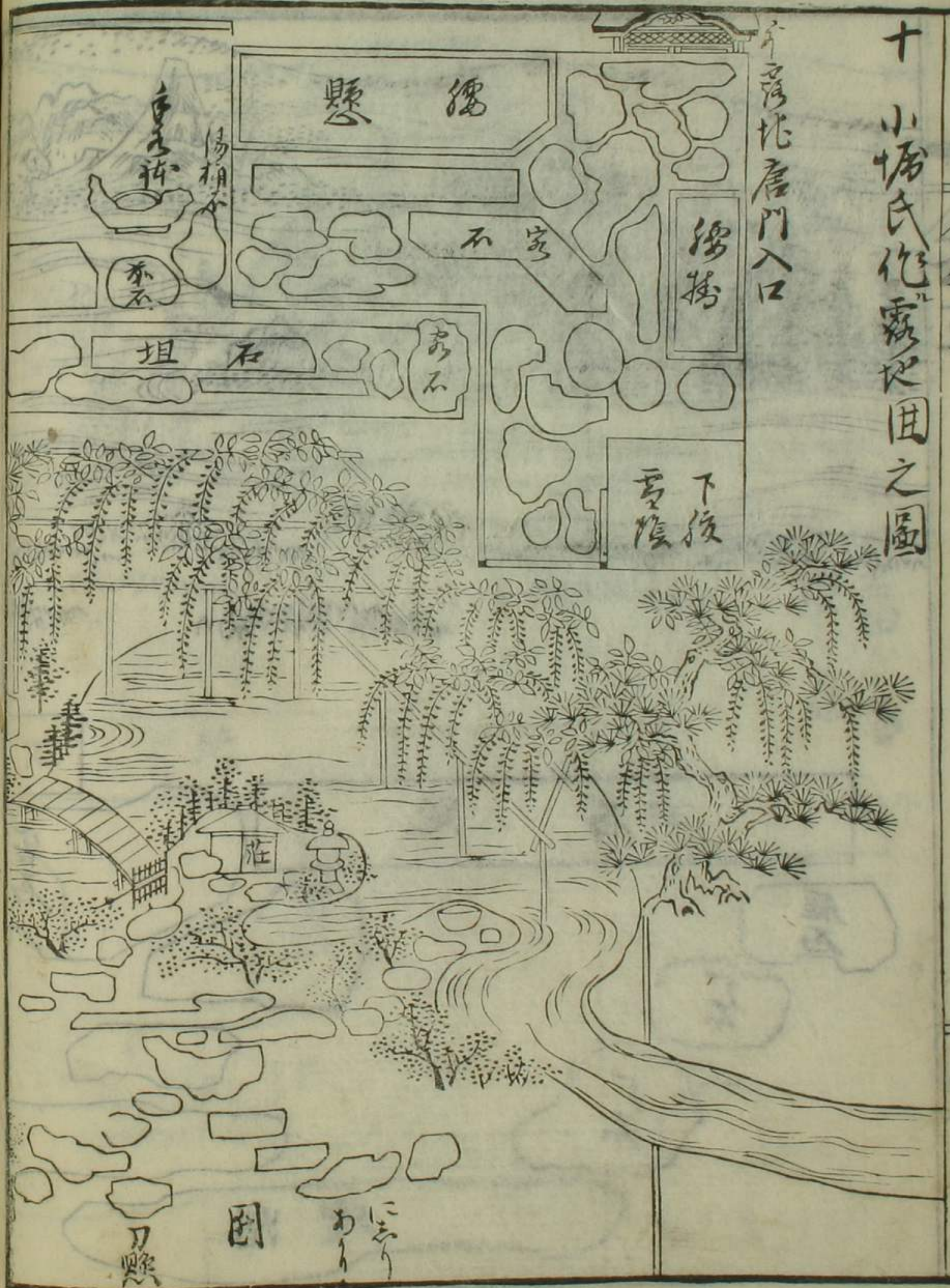


古田氏書
院之庭



十小幡氏化露地園之圖

分落北唐門入口



小塘氏作書院庭



石客

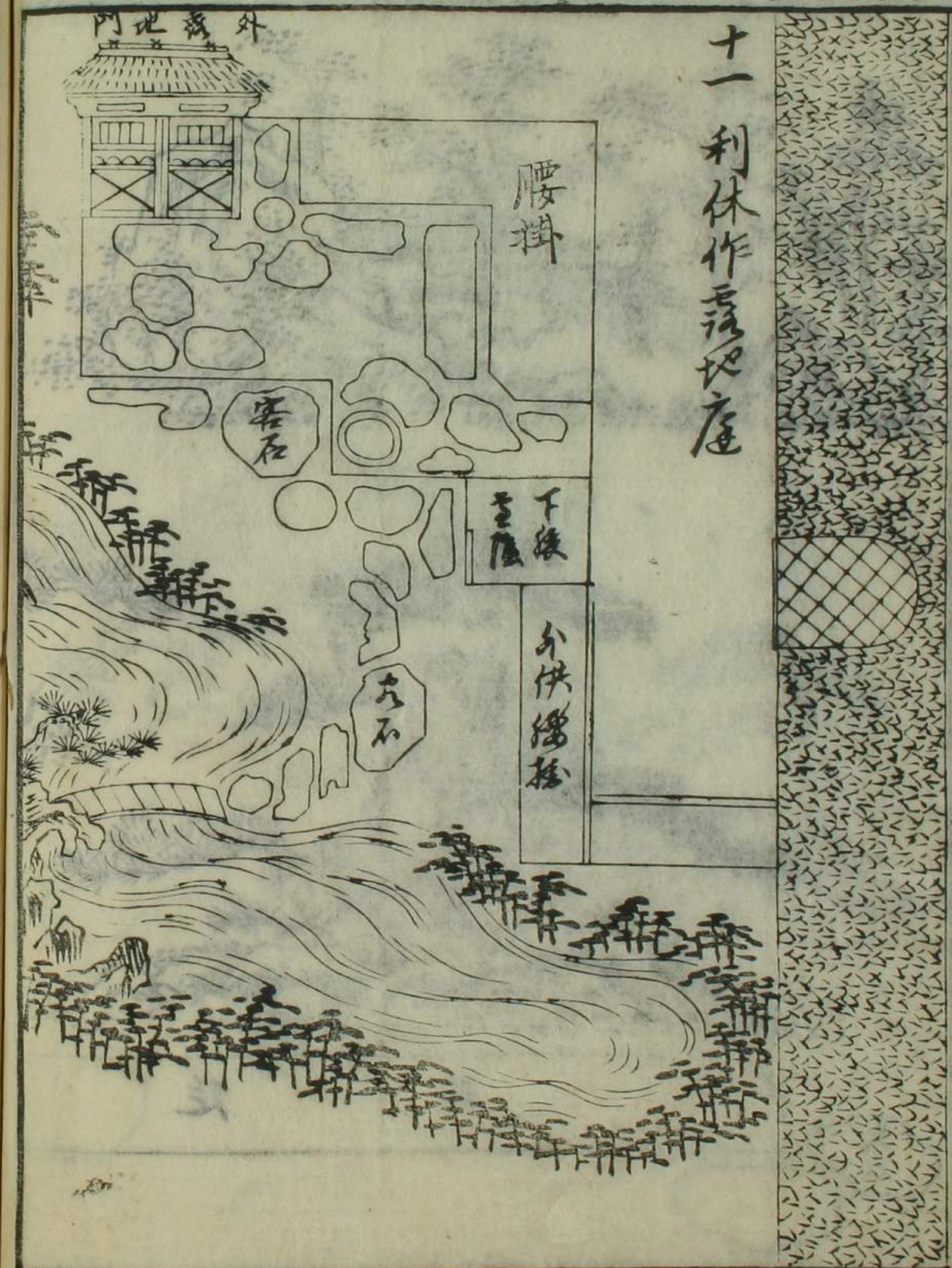
石客



石

延

石



利休作書院庭

茶五



十一



利休作書院庭
十二 雨中日記

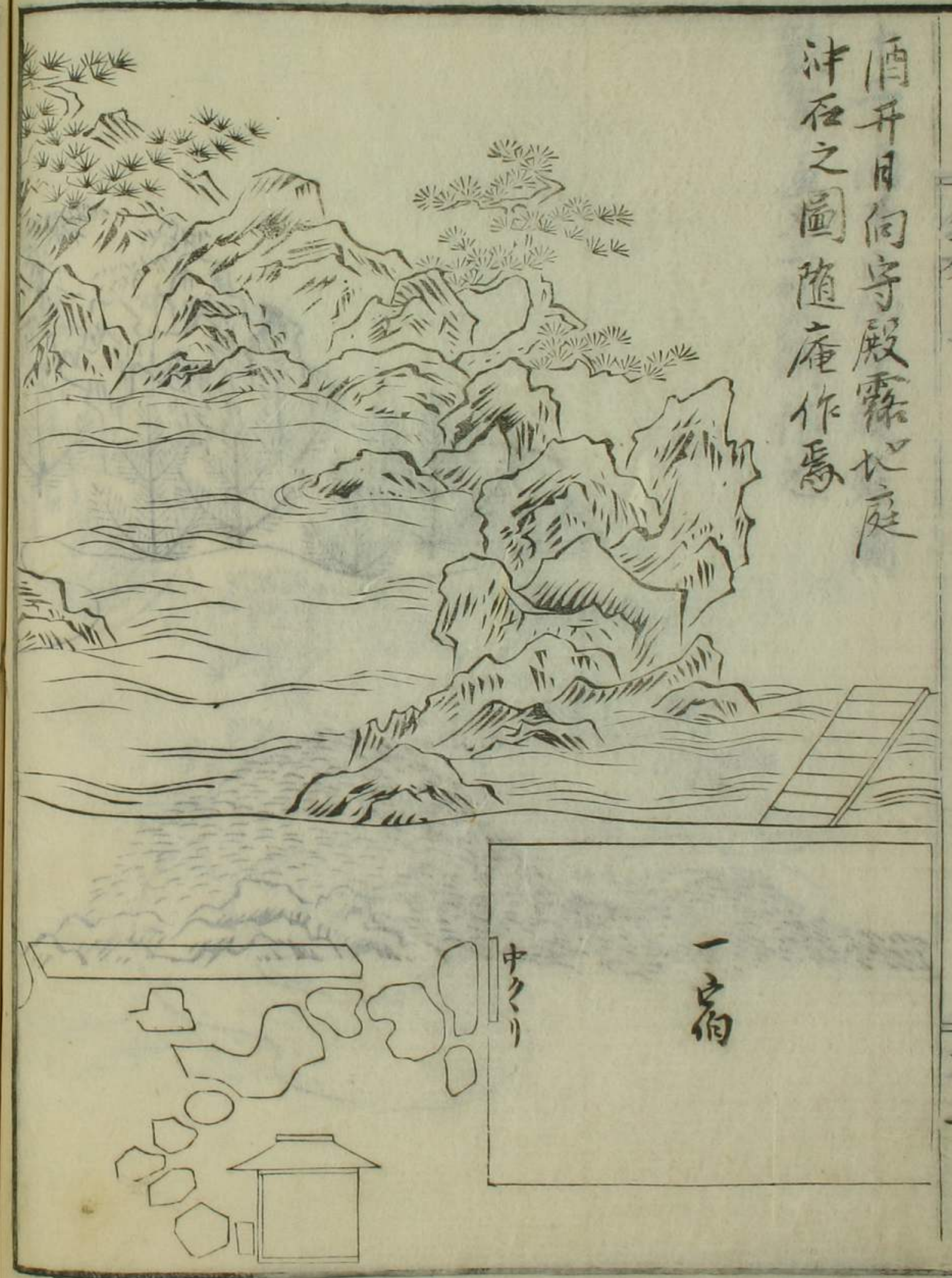
茶五

十一

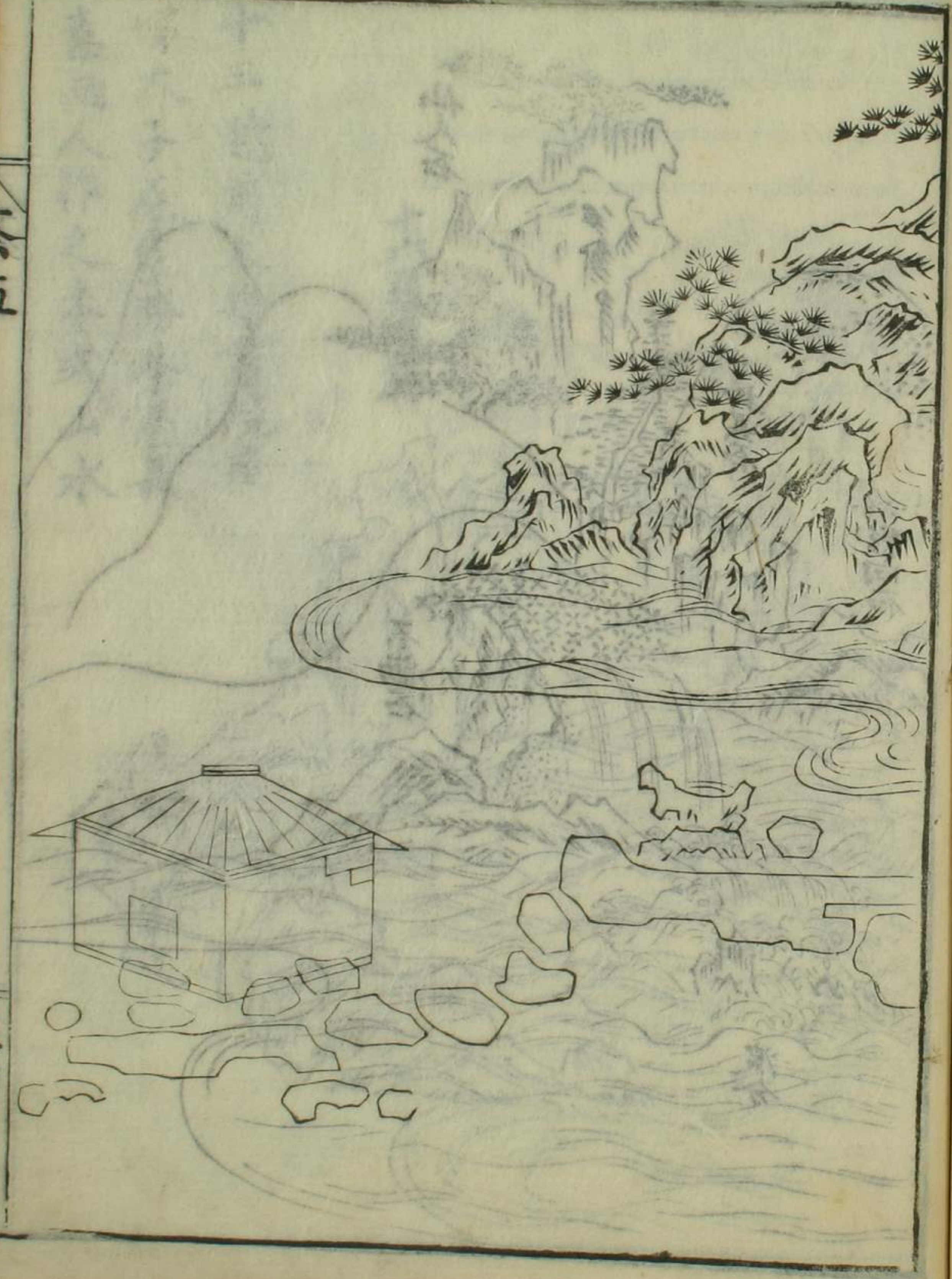
十二酒井日向守殿庭圖
 數寄屋大工加兵衛作之



酒井日向守殿露地庭
 沖石之圖隨庵作焉



一扇
 中々リ



十三越前太守書院庭
 塲大子屋宗勝茶屋長
 意兩人作之本式山水

十六羅漢石

龍門石

激水石



仙人石

柳異石

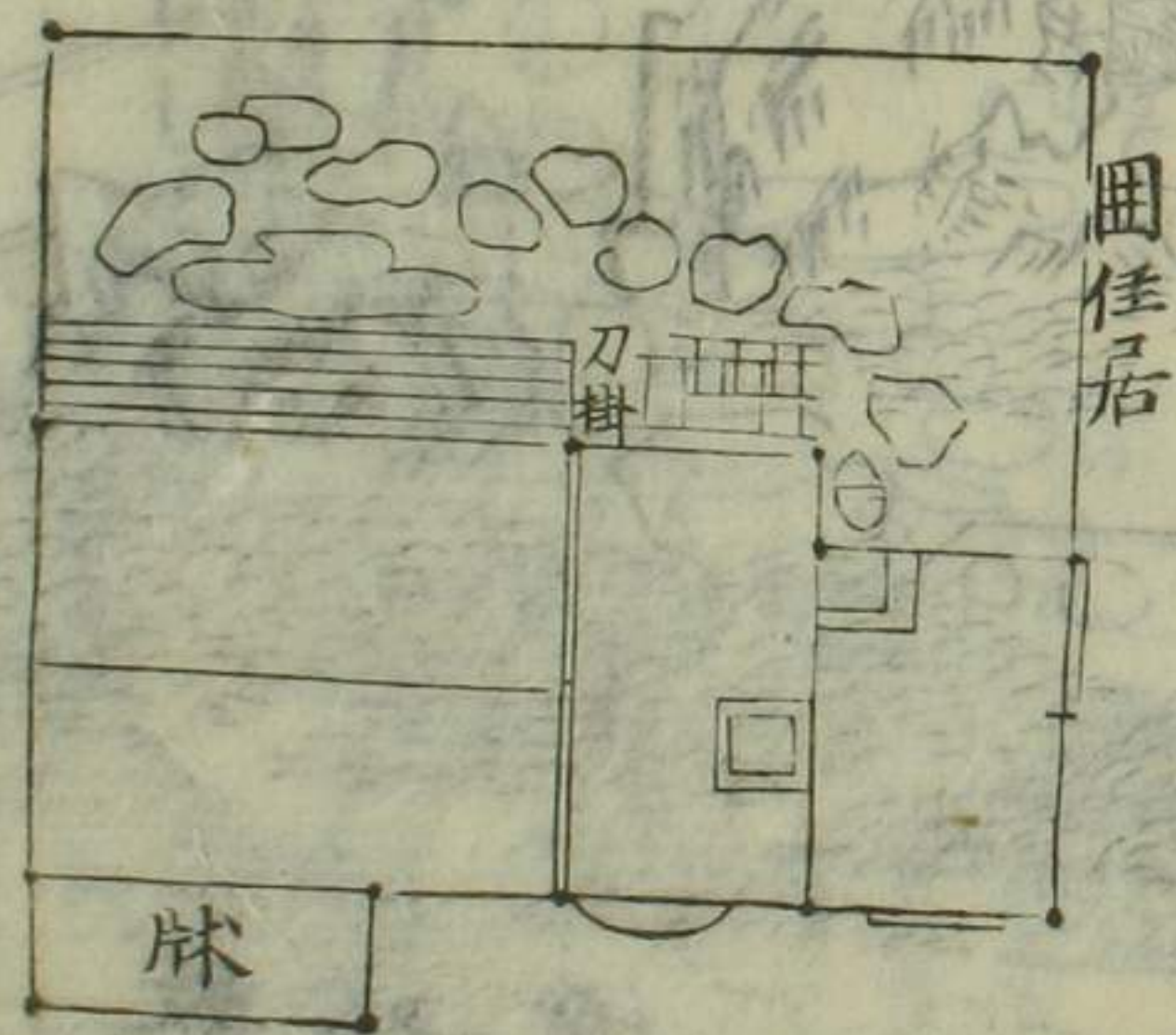
影回石

不動石

浪分

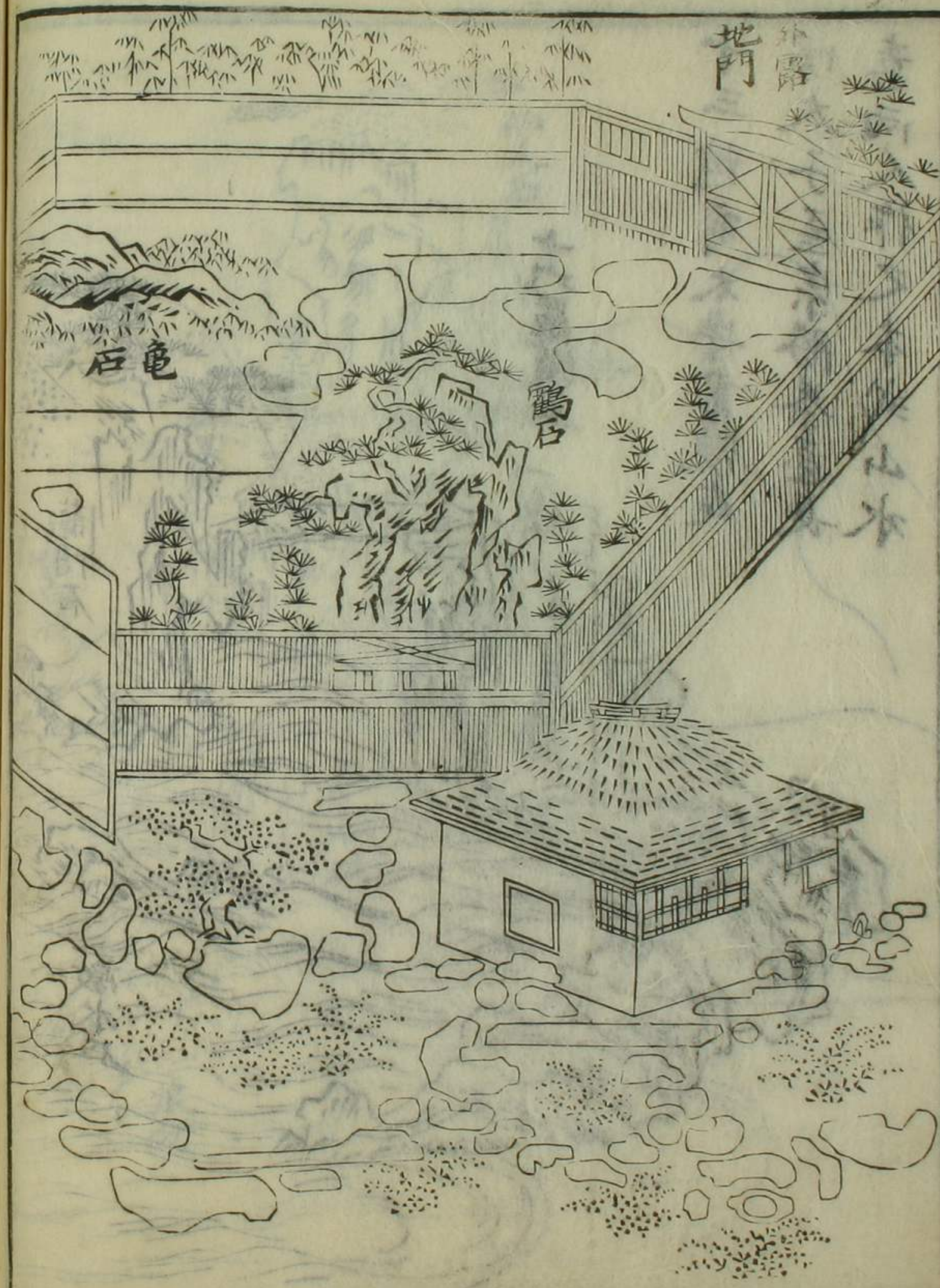


越前太守之露地園之
圖遠州指圖也



田佳居

田佳居



地門

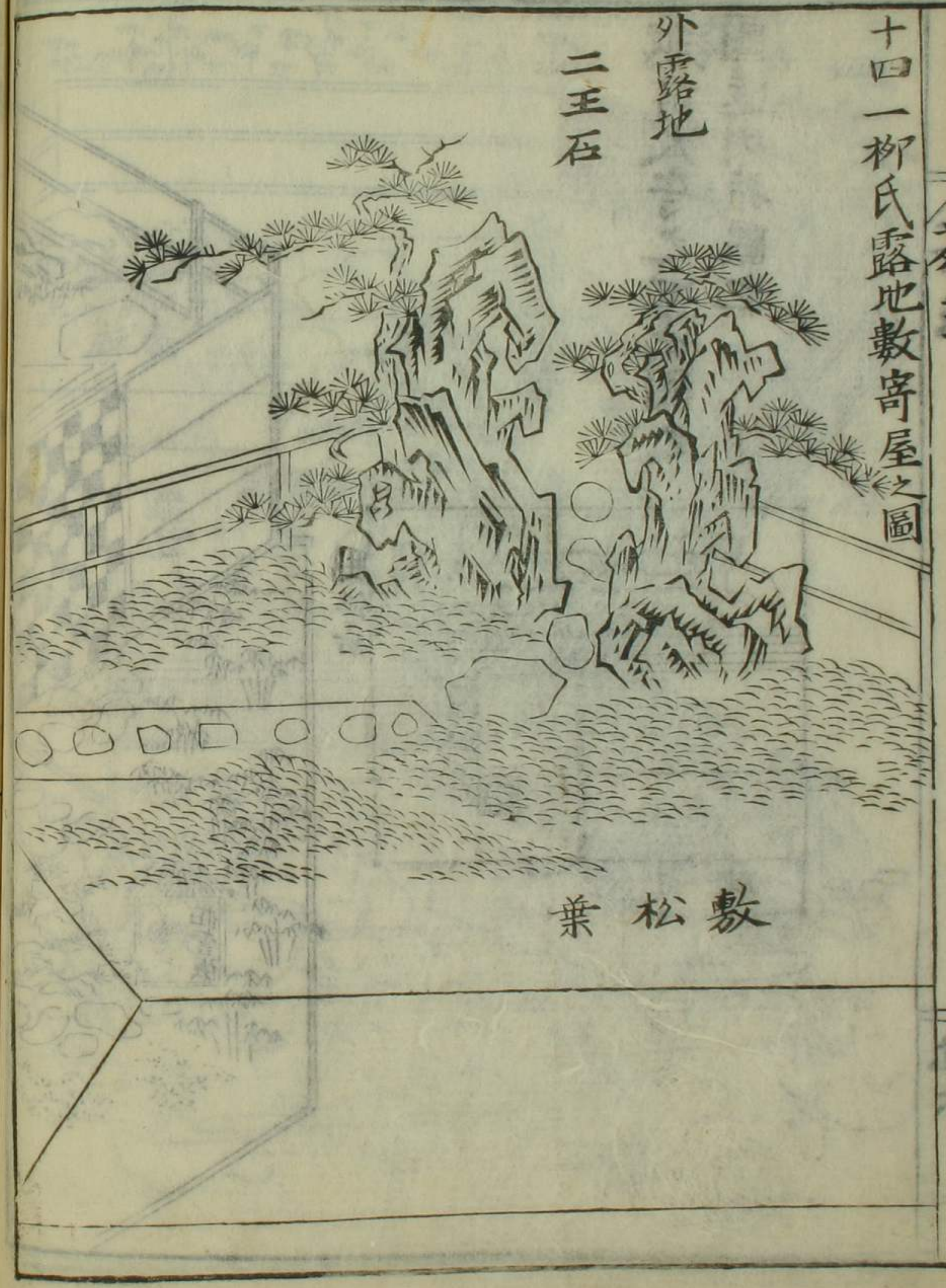
石龜

鶴石

十四一柳氏露地數寄屋之圖

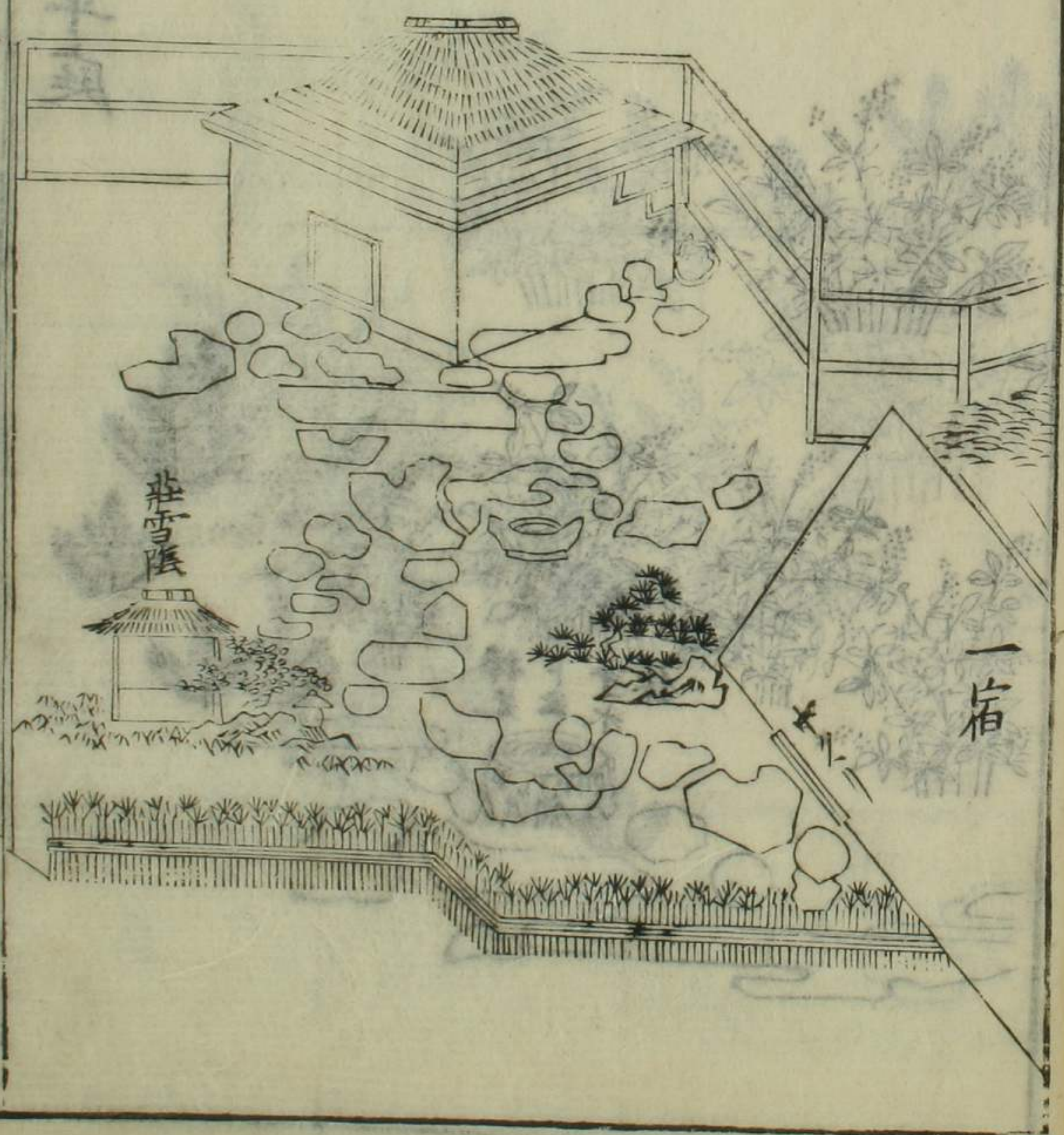
外露地

二王石



葉松敷

一柳氏南天平

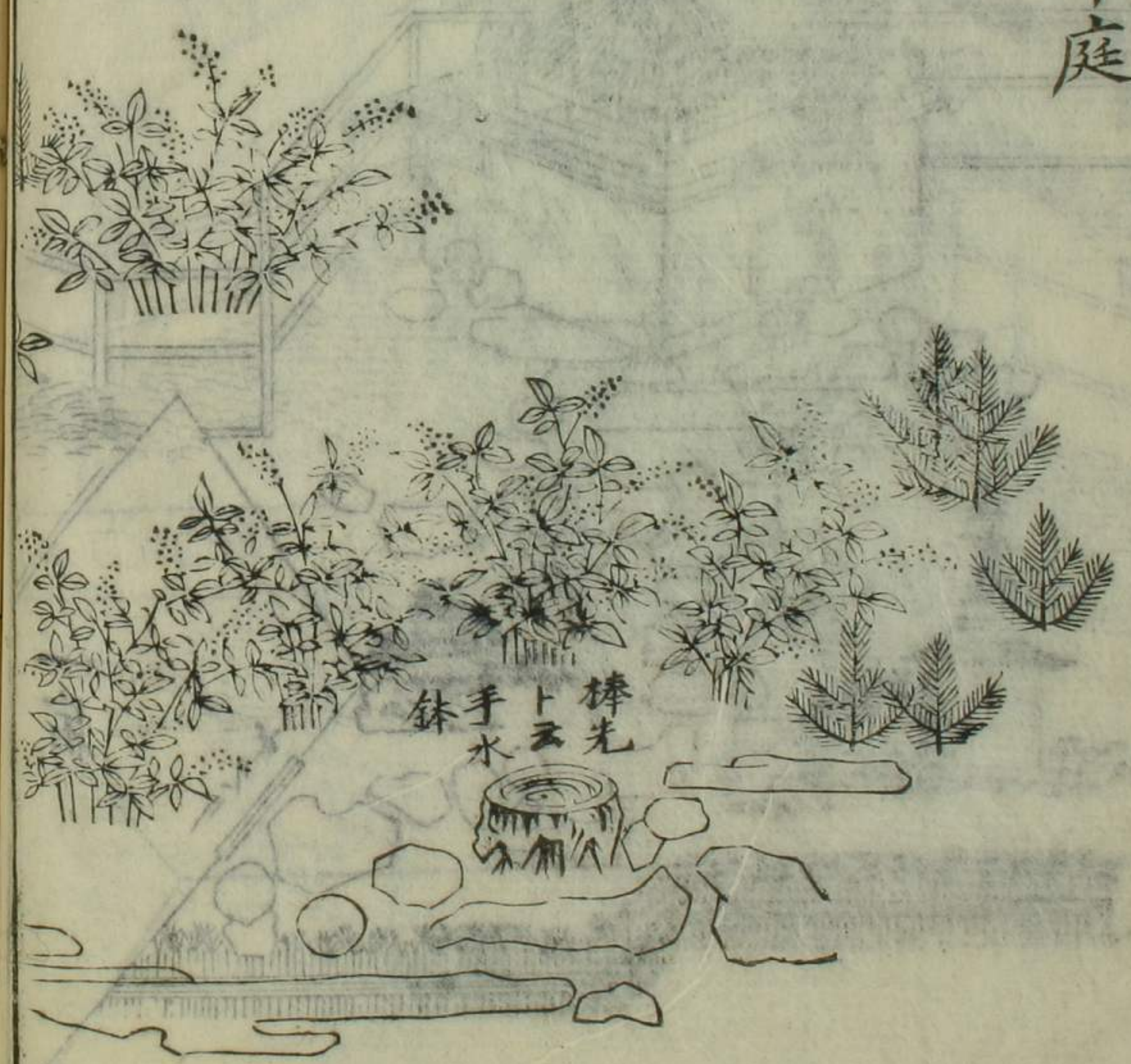


一宿

莊雪隱

九七

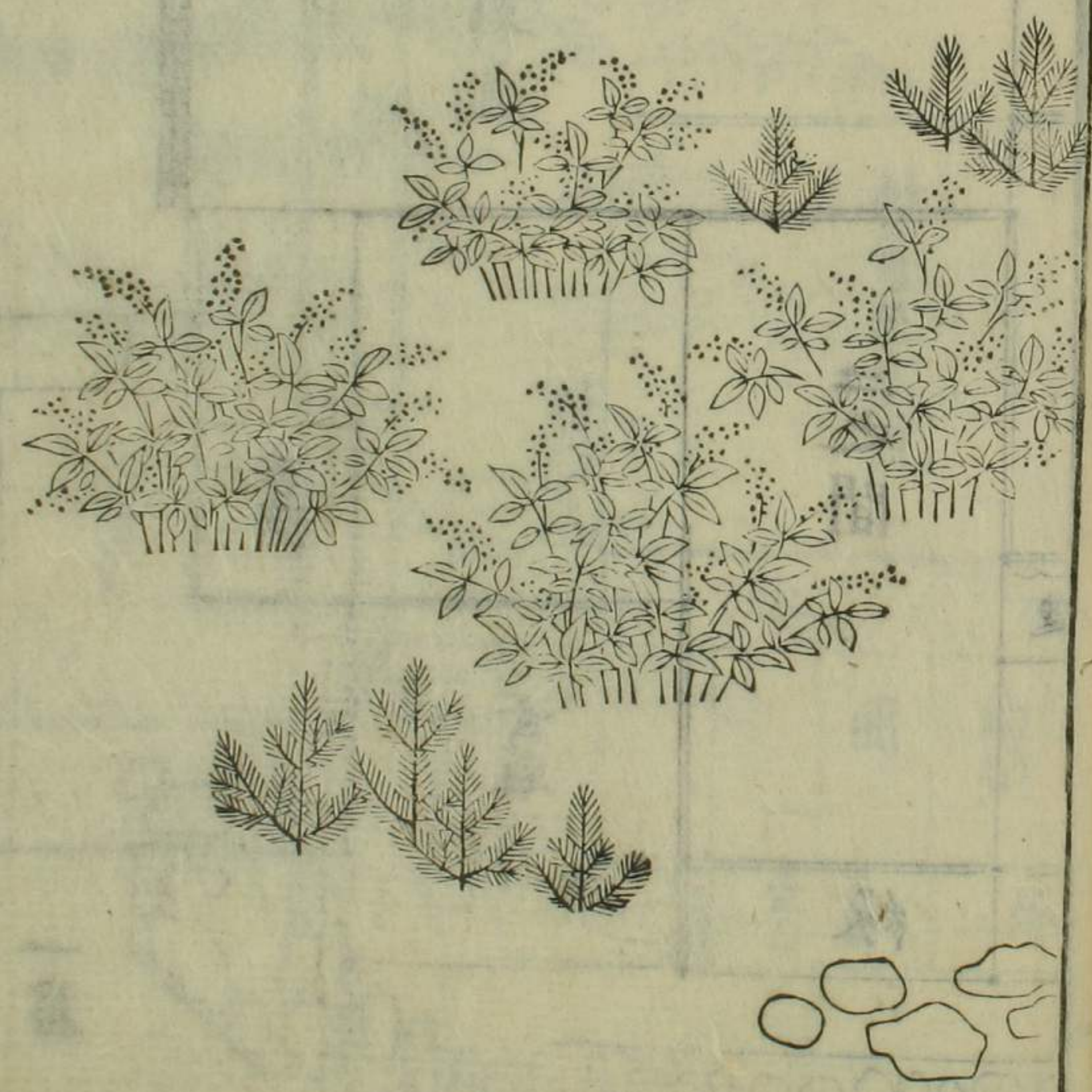
一柳氏南天平庭



鉢手卜棒
水云先

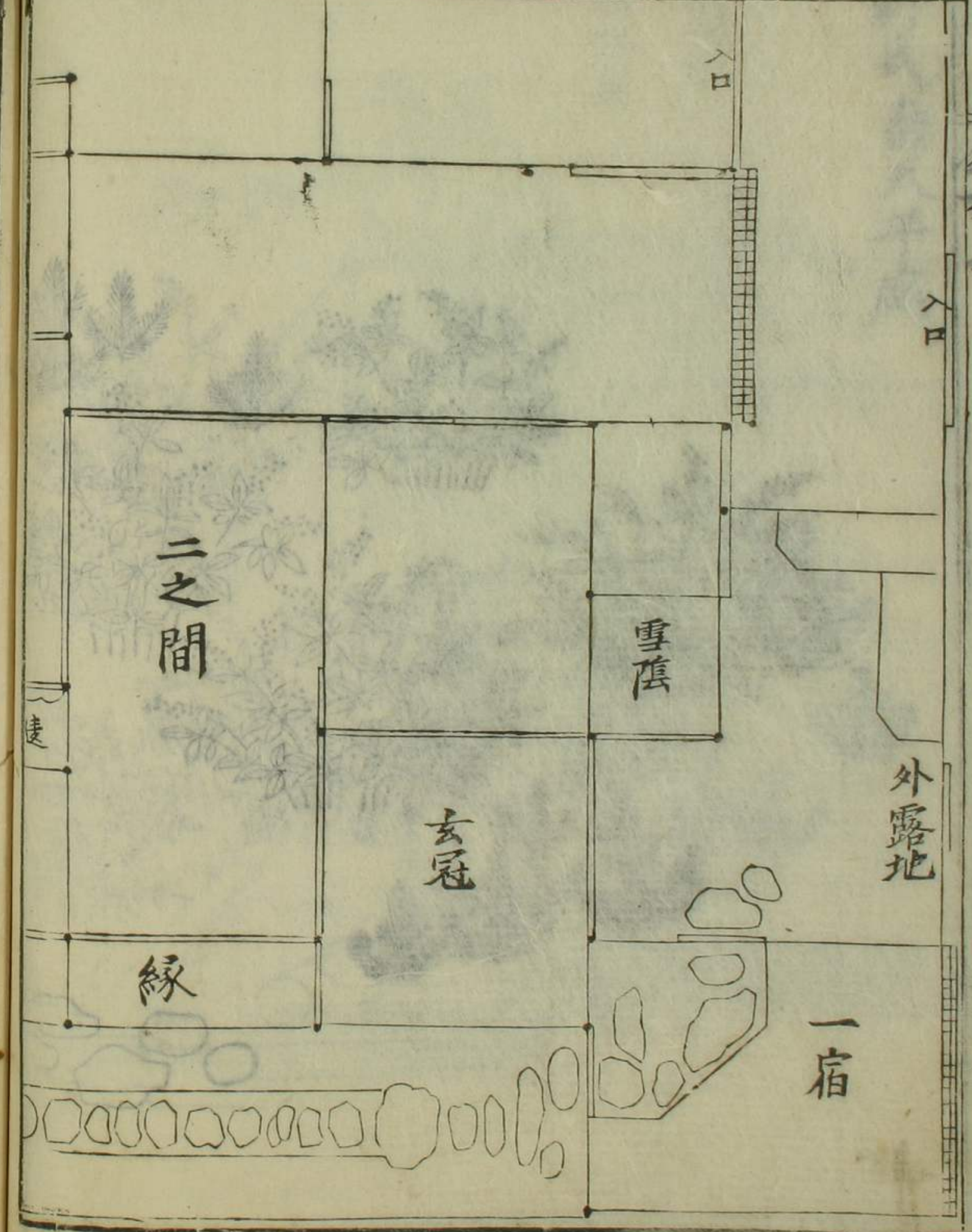
十五 柳氏南天平庭

卷五



卷五

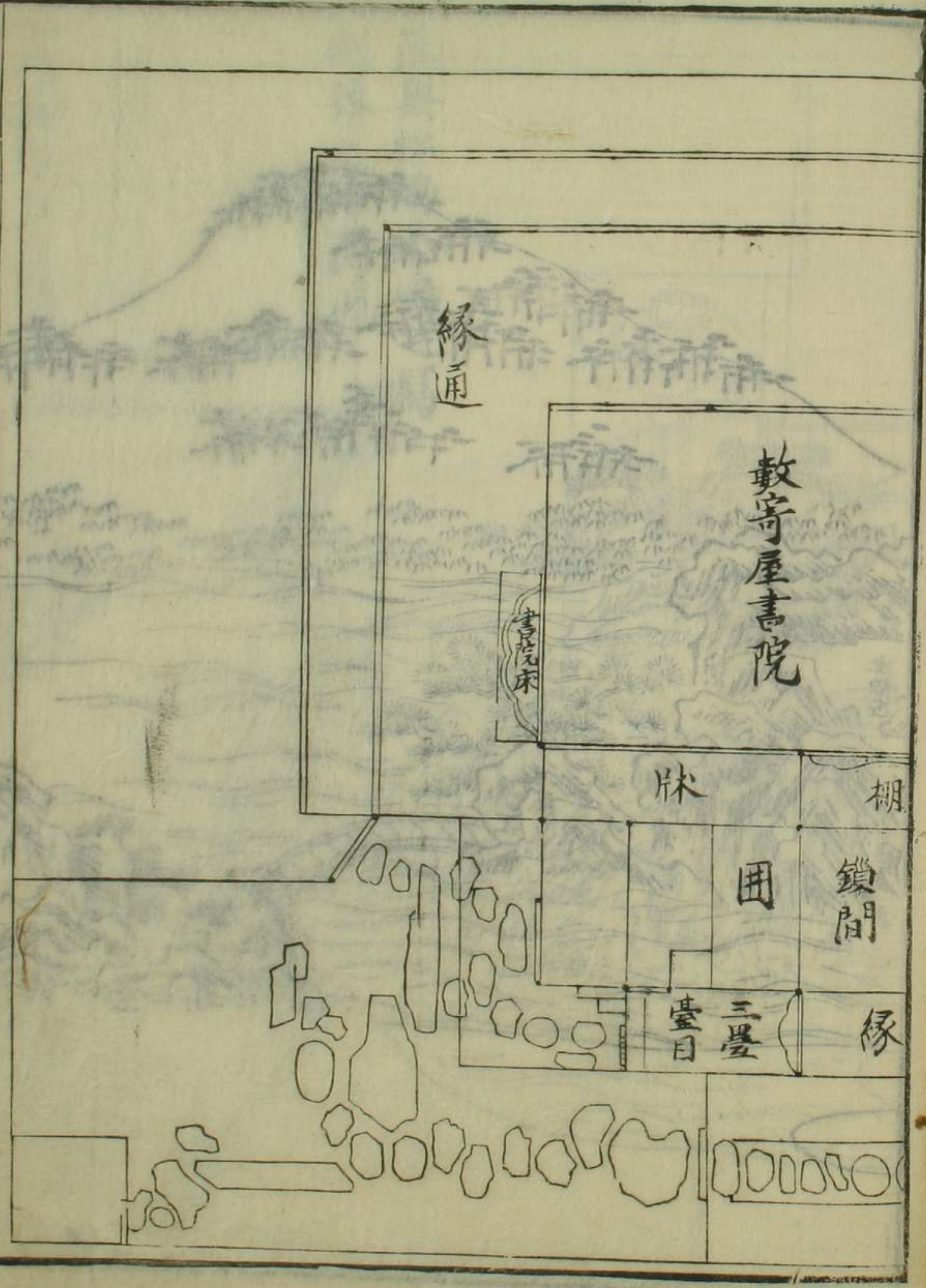
五十 堀町市居住露地數寄屋之圖



茶五

茶五

七九



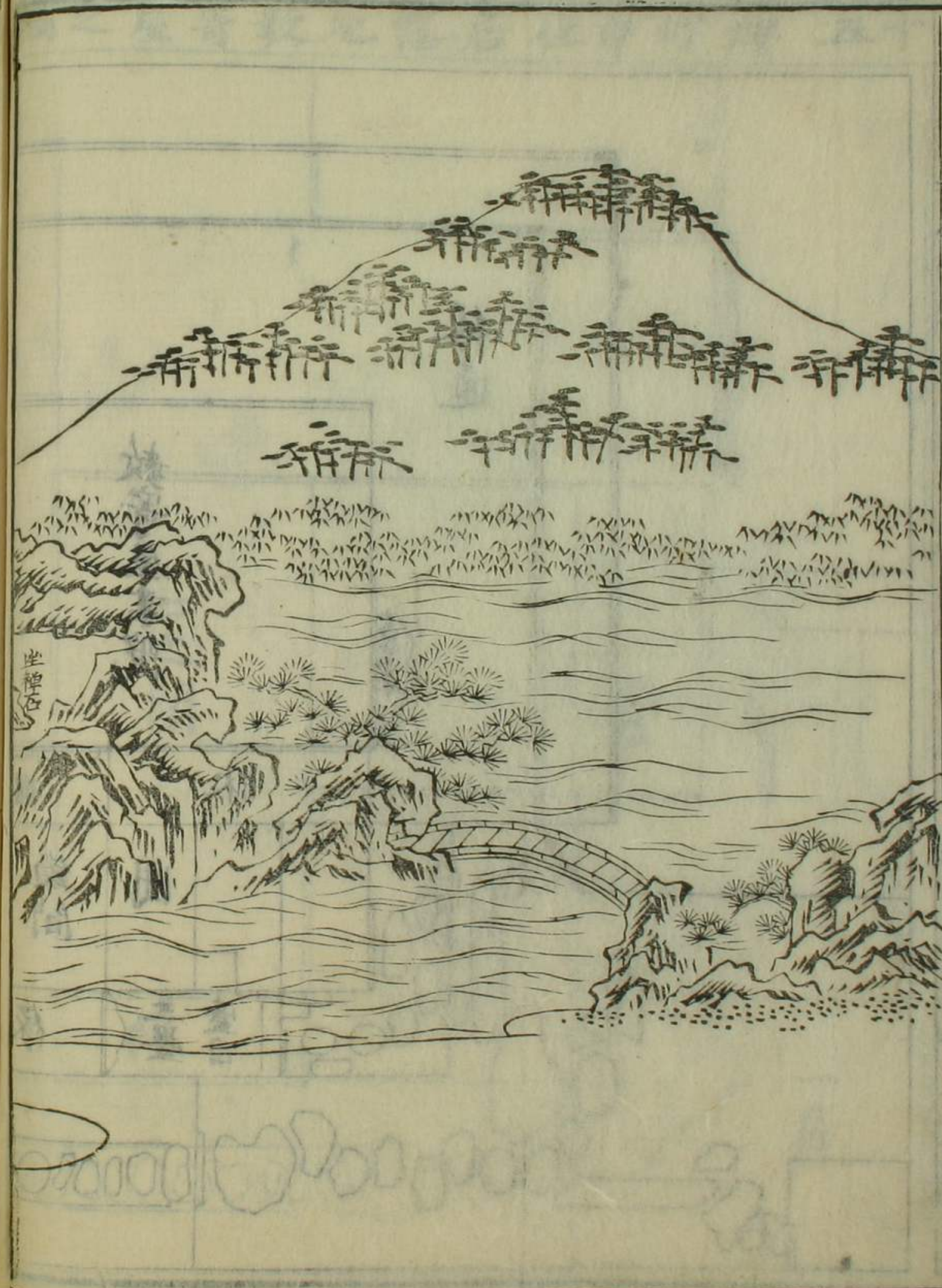
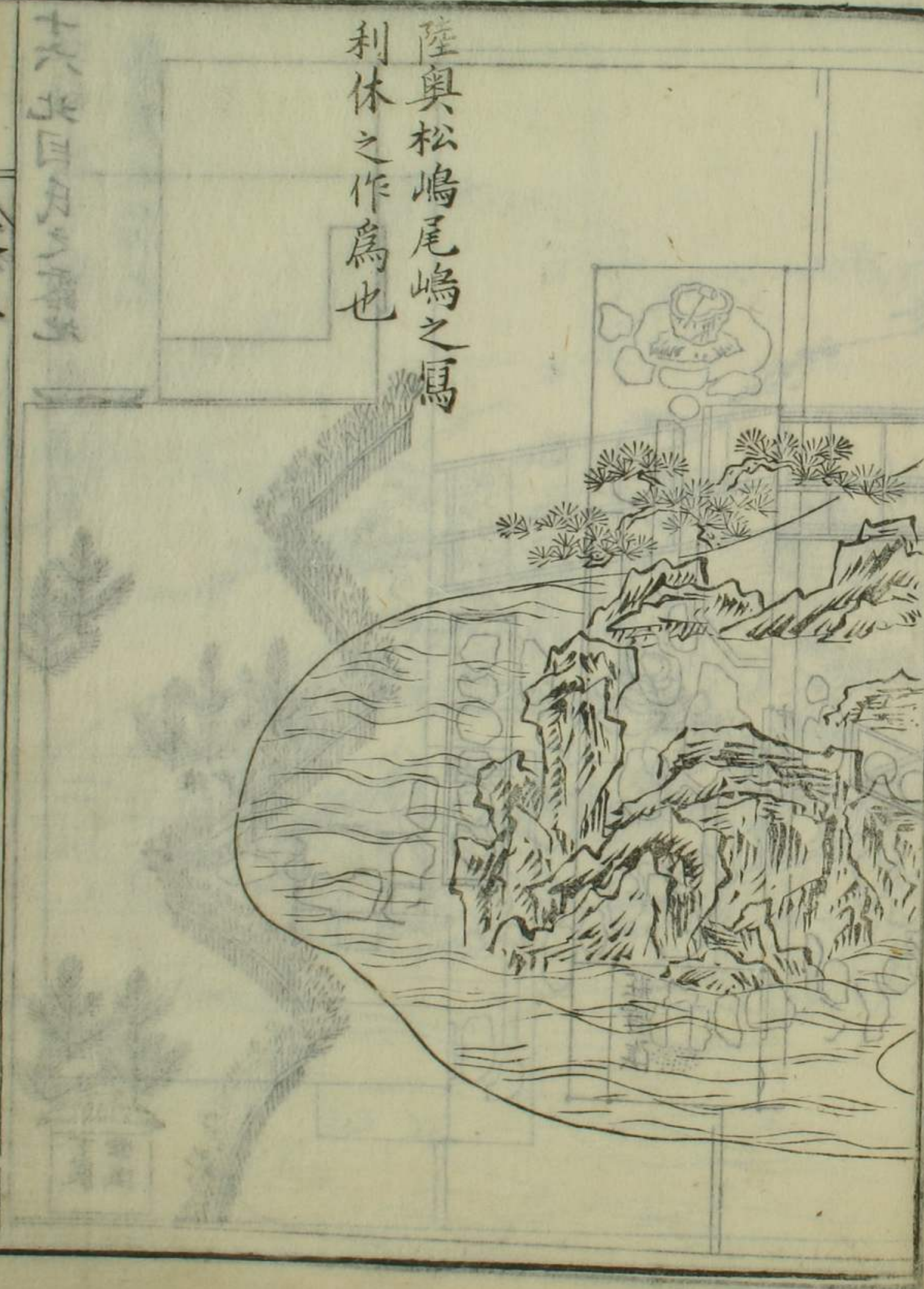
茶五

陸奥松嶋尾嶋之寫
利休之作爲也

十六日月之景

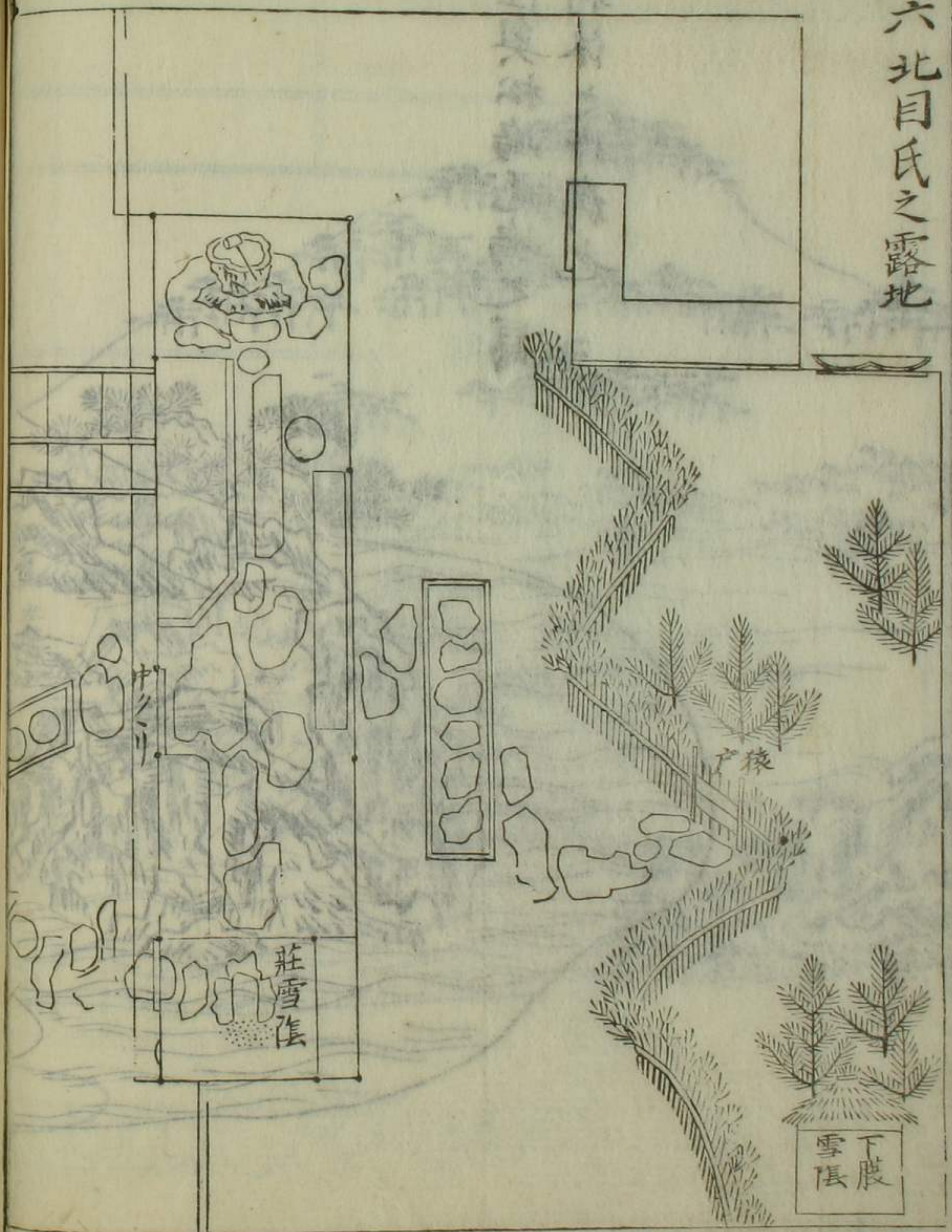
大五

四



十六北目氏之露地

茶五

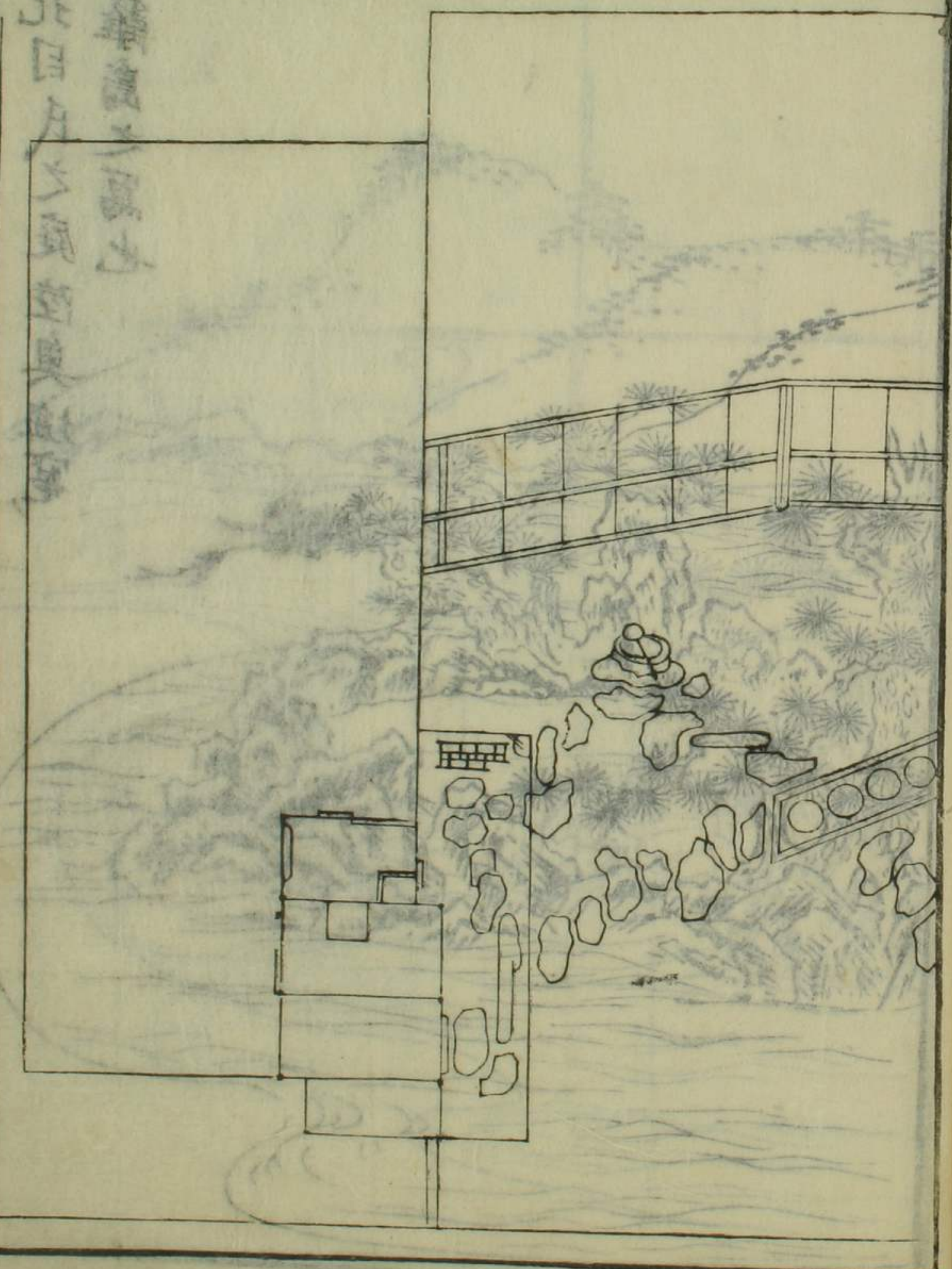


四十一

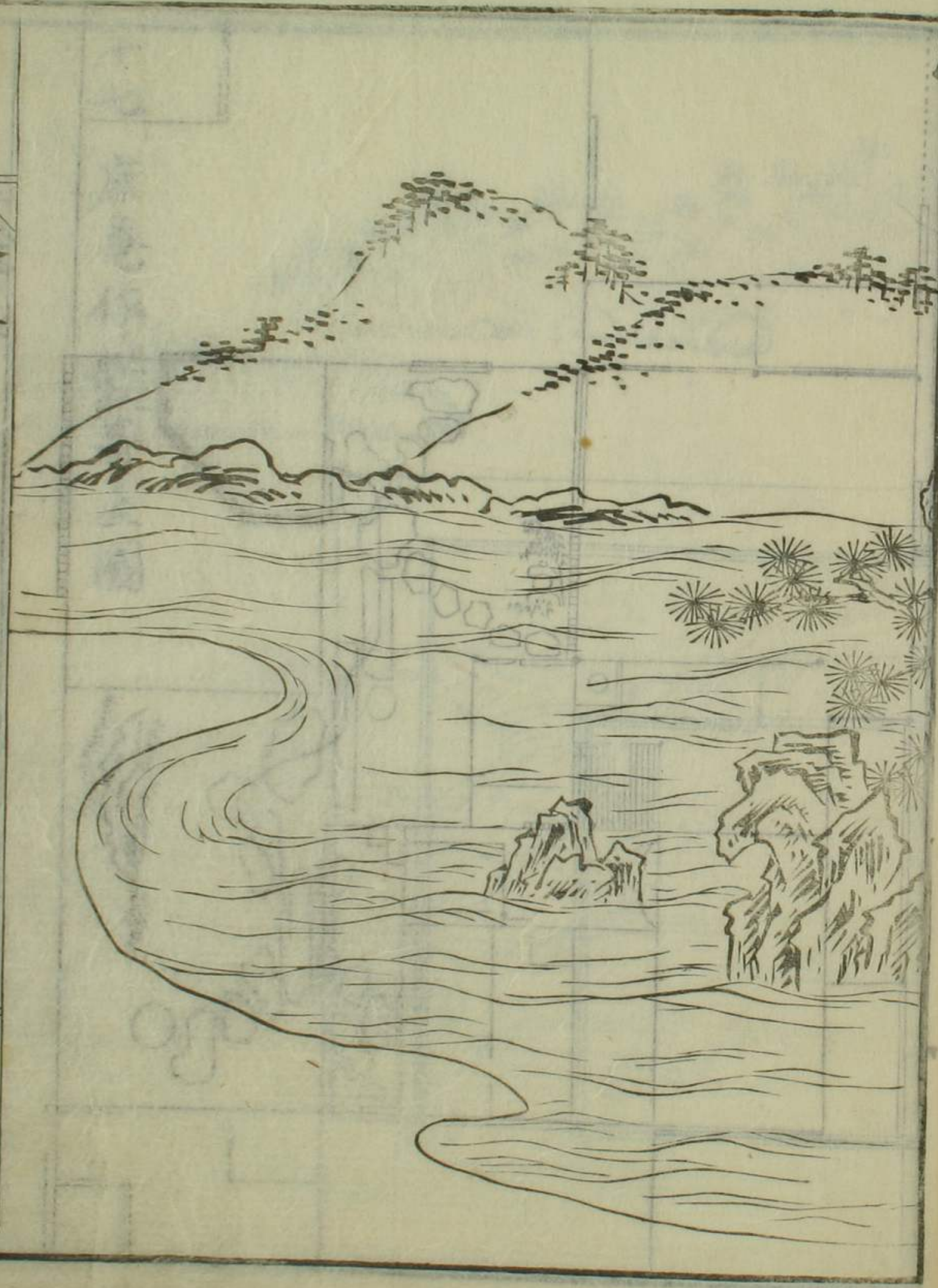
北目氏之露地

茶五

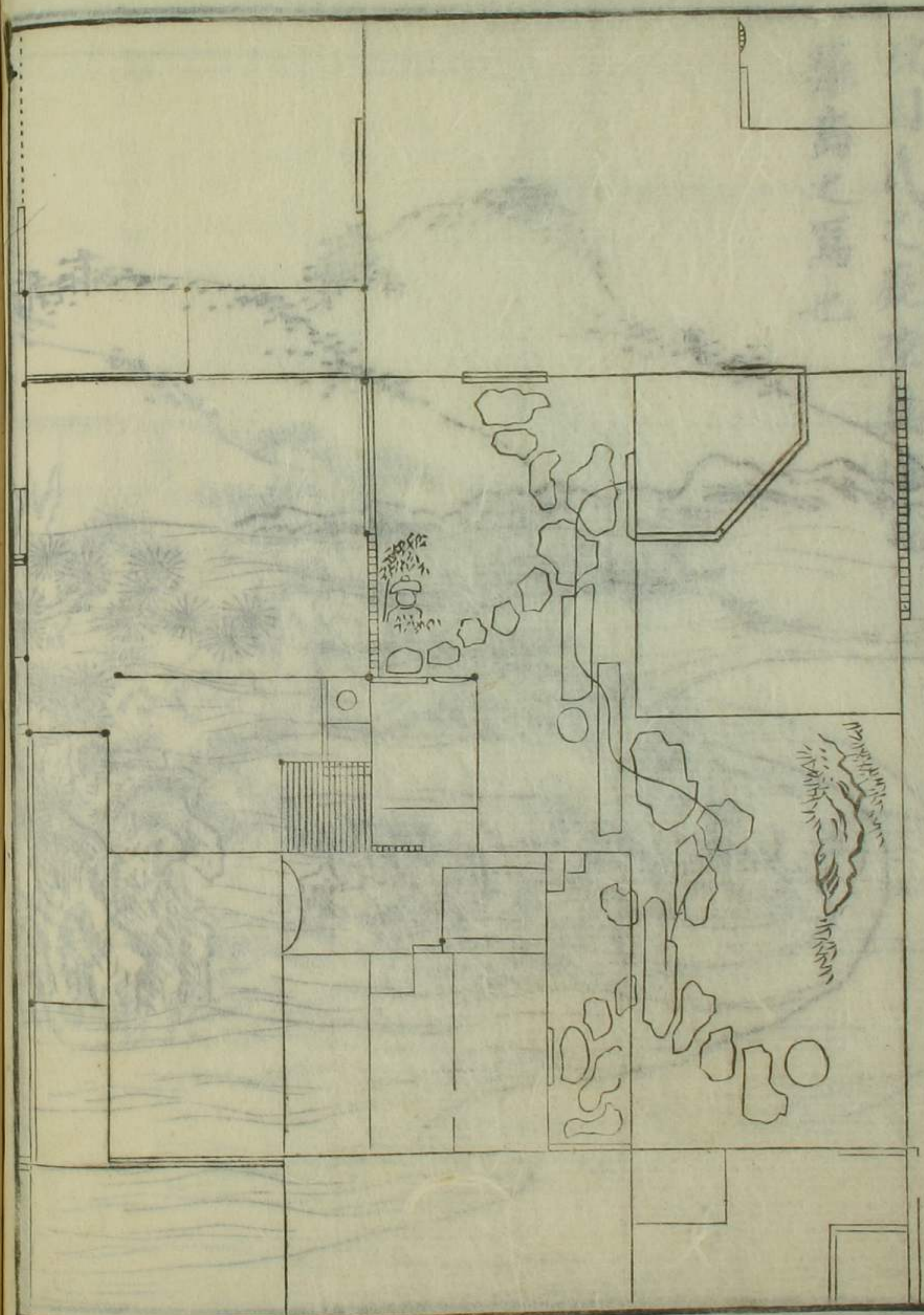
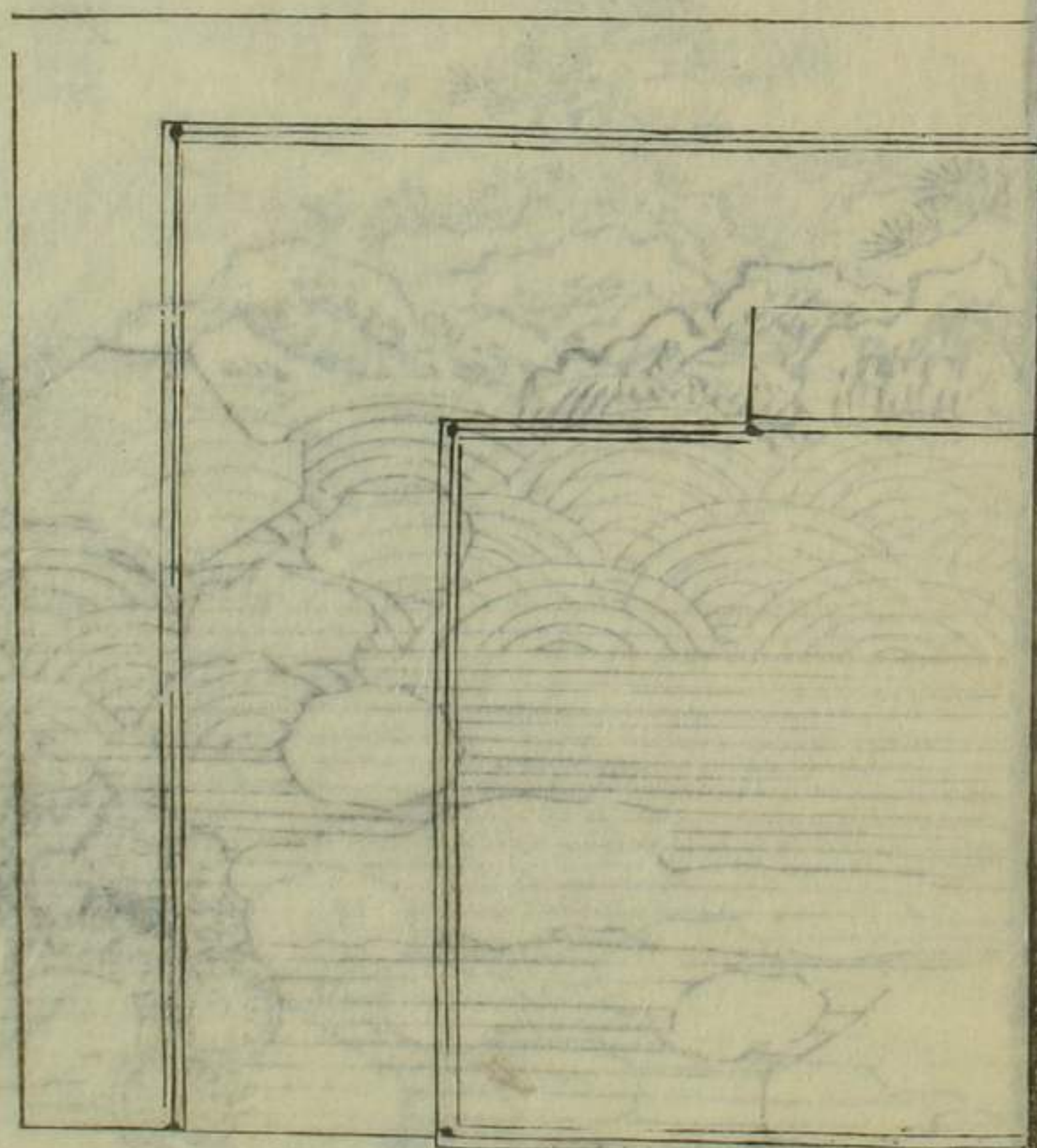
四十一



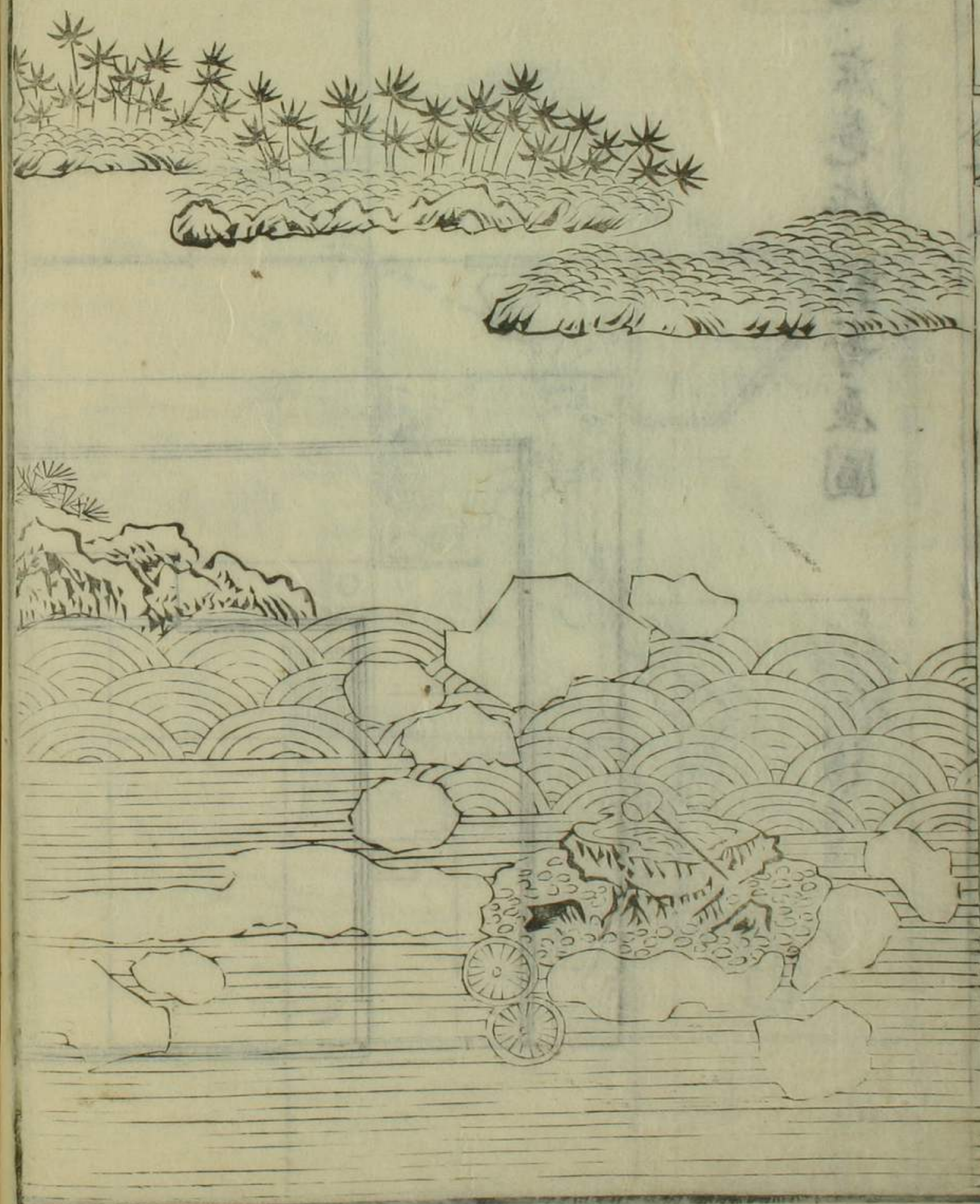
北目氏之庭陸奥塩竈
離島之寫也



十七 麻菴作數寄屋圖



右鹿菴作書院之庭



玉間樣山水一段瀧之圖
本式山水西湖之寫



十六羅漢石



玉間樣山水一段瀧之圖

玉澗樓山水二段龍之圖



獅子走



玉淵様山水三段龍圖



通天石



建仁寺内正傳庵之庭圖也昔日
織田有樂三子憚之殊慶法師名石尽之山水ヲ築ケリ



聖德太子南都
法隆寺納給
圖或也



四十六

一山神堂、过堂、崱、茶店、簾茶店、釣臺、北偏、在于此。

永祿年間

玉間瓦末泉州甥陳慶坊撰之

一、惣の東道の事を古昔より世に伝ふものも其れ也
て深きと云へども其の底なるを言ふは格別な事なり
後にも已まれども入京院葉菜集の類は其の末の意に
然るも信長公の事も其れ小傳記に述べて止隣必
和政文月由東道を通りてても其の事稀にされ
ともそのことを知る者も少く無き事なりといふ人々
よ不限らず觸心よけ或ハ懷憂に寄リ傳へようといふ
るやそのゆゑに書集めて旧跡古蹟地の事とりあはせ
以て押し又そ年代の利便性あるを列せむ也と東海とわ
るべきとの遠近と接するものも東海と書集めて東の湯
一切の事と云ふべしと云ふ所の事なり或ハ所なるを略して改

是肥只之育し事記事跡作見よ不觸置史一分之樂
とすり也役后為誰うううううん

追末

或卒亦奈集い各頻ふ飯写と固緯向軍圖とつて及
後史改た見人審想之

久祿七^甲戌年正月吉辰

四條坊門通東洞院東入町

水田甚元衛門

板行

吉岡伊兵衛

里々々



